

はじめまして にほん ガイドブック



はじめましてにほん ガイドブック

もくじ

支援者の皆さまへ		i	
ユニット			
ユニット1	自己紹介	1	
ユニット2	数えよう	5	
ユニット3	何がある？誰がいる？	14	
ユニット4	買い物	20	
ユニット5	毎日の生活	31	
ユニット6	交通	39	
ユニット7	町へ出かけよう	46	
ユニット8	仕事と職場 1 挨拶・連絡	52	
ユニット9	健康と病気	59	
ユニット10	季節の行事	63	
ユニット11	仕事と職場 2 面接	67	
ユニット12	地域のコミュニケーション	71	
ユニット13	身近な人と話す	75	
ユニット14	公共マナー	79	
ユニット15	仕事と職場 3 コミュニケーション	82	
ユニット16	自国紹介	87	
ユニット17	災害	91	
教材例			
ユニット1	94	ユニット3 98	ユニット4 100
ユニット5	101	ユニット6 105	ユニット8 109
ユニット9	110	ユニット15 113	ユニット17 114
発展学習のヒント			117

支援者の皆さまへ

難民に対する日本語教育を行っている RHQ 支援センター（以下「センター」）では、2013 年に第三国定住難民の方々対象に、生活のための日本語学習教材—ユニット学習編『はじめまして にほん』、絵辞典編『にほんご えじてん』を作成いたしました。文化庁のサイトでもダウンロードしてお使いいただけるように公開しております。

このたび、『はじめまして にほん』本冊を使って難民や日本に来てまもない外国人の支援をしてくださる方々に向けてのガイドブックとして、本書を作成いたしました。

『はじめまして にほん』本冊は、タイのメラキャンブから来たカレン民族の難民を対象に作成しました。非識字者を含む比較的教育経験の少ない人を対象に生活日本語を教える現場から、そこで考え出したものがベースになっています。そのため動詞も絞っており、文法説明をせずに、イラストを使ってわかってもらう工夫などもあります。このガイドブックで説明する指導の仕方もこの姿勢が基本になっています。

<各ユニットの構成>

＊ねらい その項目で、できるようになってほしいことを掲げています。

その下に、ユニットの説明、または注意事項などを記しました。それらのことを念頭に学習を進めてください。

＊カバーページの使い方

『はじめまして にほん』本冊の各ユニットの最初のページは、そこで学習する内容がイラストで一目でわかるようになっており、どんな日本語レベルの学習者でもそこを入口として学習に入っていけるようになっていきます。（ガイドブックでは、その最初のページを「カバーページ」と呼ぶことにします。）

ここにあるのはあくまで一例であり、ほかにもさまざまな使い方が考えられます。

＊ワークシートの使い方

基本的には絵カードやイラストをたくさん使い、口頭で進めていきますが、ワークシートは文字化して押さえたり、まとめたりする際に使用します。学習者に合わせてお使いください。文字が定着していないクラスでは、書くワークシートを使わなくても構いません。余力のある学習者のために、<One More Step>として、少し広げた学習を載せています。

* 大切な文のかたちや表現

ここでは、生活していく上でよく使われる文のかたちや表現を取り上げました。文のかたちとして取り上げているものには、必要だと思われることばを当てはめて練習してください。

* 発展学習のヒント (pp. 117-123)

本冊当該ユニットの学習が終了した、あるいはすでに一定の日本語力がある学習者に向けたアクティビティとなっています。

(学習内容によっては、発展学習のヒントや大切な文のかたちや表現が入っていないユニットもあります。)

ガイドブック巻末 (p. 94-116) に、『はじめましてにほん』本冊には載せきれなかった教材例を掲載しています。

<進める上での留意点>

- ・ユニットによって以下のような特徴があり、どのユニットも、それらの特徴が複数合わさった内容となっています。

＊生活・就労、教育などに関わる実用性の高い生活密着系

＊自分を語ることを重視する自己表現系

＊他者と関わること、あるいは協働を重視する人間関係構築系

＊生活情報系

これらを踏まえて、生徒の様子を見ながら学習を進めてください。

- ・『はじめまして にほん』本冊にはイラストがふんだんに使われています。カバーページやワークシートにあるイラストを、1枚ずつの小さな絵カードにすると扱いやすく、覚えるのにも便利です。その際、裏にマグネットを付けておけばホワイトボードに貼っても使えます。また、絵カードはカルタなどのゲーム教材としても役立ちます。



- ・学習した日本語が、口をついて出るまでたくさん口頭練習してください。
- ・『はじめまして にほん』本冊は文法積み上げのテキストではないので、文法項目をすべて網羅しているわけではありません。日本で困ることなく生活していくための日本語表現を柱に組み立ててあります。したがって、各ユニットは必ずしも順に学習する必要はありません。学習者のニーズに合わせてその場その時に必要なユニットから適宜導入してください。
- ・『はじめまして にほん』本冊はバインダー形式での使用を想定しています。ワークシートのすべてを行うことはなく、対象とする学習者にとって必要なものを選んで使っていただくことができます。また、学習者の状況に応じて、シートの内容を修正したり、新たな練習シートや資料などを足したりしていただければ、それぞれの学習者にとっての自分だけの『はじめまして にほん』ができあがることでしょう。

このガイドブックが、支援者の皆さまにとってお役に立てましたら幸いです。

ユニット 1

自己紹介

<ねらい>

初めて会った人に、ある程度まとまった内容の自己紹介ができる。

- ・名前、出身地、来日時期等を言う。
- ・家族の人数、構成、名前、年齢などを言う。
- ・好きなものや、趣味について話す。
- ・自分がよく知っている人を他の人に紹介する。

どのような社会でも、これからお付き合いが始まる人には、自己紹介をするのが一般的でしょう。このユニットでは、入門期の学習者が初めて日本人と接するとき、話せるようにしておきたい自分についての基本情報の言い方を学びます。また、すでに日本語でやりとりができる学習者が、自分についてもっとよく知ってもらうための活動のヒントも紹介します。



『はじめまして にほん』は元々、家族で来日し、センターで全員で学習する第三国定住難民のために作成された教材なので、最初に同居家族の紹介について学習するのはごく自然です。ただほかの難民は秘匿性とトラウマなどの理由により、個人情報について自分から話したくない人も多いですし、地域の定住者にしても、最初から家族のことを話題にすることには躊躇する場合があるかと思います。支援者がまず、自分の家族について話し、そのときの反応によりこの部分はカットしたり、支援者との関係ができて学習者の方が自然に話し出すまで待ったりするなどして、無理に聞き出すようなことがないように注意してください。本人の年齢などの個人情報についても同様です。

カバーページの使い方

4つの場面のイラストを見ながら、「はじめまして」を言うのはどんなときか、イメージ喚起をします。学習者の日本語力によって、このページを使ってできることは違ってきます。例えば、入門学習者の場合、それぞれの場面のイラストカードを見せながら、「はじめまして」を言う練習を繰り返すことで、場面と挨拶表現をつなげていきます。少しやりとりがで

きる学習者であれば、それぞれのイラストがどんな場面かを簡単に説明してもらおうとよいでしょう。イラストで示した以外に、どんな場面で初対面の挨拶をするかを考えてもらうこともできます。もっと話せる学習者なら、これまでの経験や失敗談など、さらに会話を発展させることができます。

このように、学習者のレベルに合わせて、このトピックで、学習者が今できること、この学習を通してできるようになってほしいことを確認します。

ワークシートの使い方

◆ワークシート①-1 家族の人数、家族名称、年齢

タイのメラ難民キャンプから、第三国定住難民として来日した学習者を対象に作られたワークシートです。全員が家族単位で入国していますので、自分が属する最も小さい共同体としての同居家族を紹介するシートになっています。

まず、支援者の同居家族の写真を見せたり、家族のイラストを見せたりして、「家族」ということばを紹介します。その後、学習者にも、自分の家族の絵を描いてもらいます。絵を描く過程の中で、「お名前は?」「何歳ですか」などのやりとりを行います。名前や年齢を絵の中に書き入れていくとよいでしょう。家族の人数を「ひとり、ふたり…」と支援者と一緒に数えてから、「家族は～人です」と言えるように練習します。また、夫、妻、子ども（息子、娘）など、自分の家族について話すときに必要な家族名称を紹介します。大家族で子どもの人数が多い場合は、「上の息子、下の娘」等の言い方も教えますが、まだ汎用的に使えるようになる必要はありません。

最後の仕上げとして、家族の絵を見せながら、以下のように簡単な自己紹介ができるようにします。

「はじめまして。() です。家族は～人です。

妻の() です。～歳です。息子の() です。～歳です。

どうぞ、よろしくお願いします。」

◆ワークシート①-2 出身地・来日時期・居住地・家族について話す

ワークシート①-1 より、情報量を多くしたものです。最初から①-2 を使えと判断できれば、このワークシートから始めても構いません。いつ、誰と、どこから来日して、どこに住んでいるか、同居家族は何人で、どのような家族構成かと言えるようにします。「～から来ました／～に住んでいます」は表現として紹介して、まるごと覚えてしまうようにしましょう。

「いつ」「だれ」「どこ」の疑問詞カードを見せながら、「いつ来ましたか」「誰と来ましたか」「どこから来ましたか」「どこに住んでいますか」のような質問文、それに対する応答を繰り返し練習します。カレンダーや地図、家族のイラスト等を使って、疑問詞が持つ意味と結

び付くようにします。

なお、年月日や「今日、来週、去年」などの＜時を表すことば＞の習得には時間がかかりますから、毎日の反復学習として行ってください。

<One More Step>

同居する家族について話せるようになったら、さらに、日本にいない両親や兄弟姉妹についても話せるように、語彙を増やします。

(参考： 『にほんご えじてん』 2 かぞく・ひと)

◆ワークシート②-1 好きな色や食べ物について話す

好きな色、食べ物などをイラストから選び、自分や家族が好きなものの語彙を覚えていきます。ワークシートのイラストだけでは数が少ないので、『にほんご えじてん』を開いて、好きな物を探してもらおうと、楽しく活動できます。①-1で描いた自分と家族の絵の下にも、好きな食べ物の名前等を書き込んでいくとよいでしょう。それを見ながら、「～が好きです」を繰り返して練習します。

◆ワークシート②-2 好きな色や食べ物、趣味について話す

好きな物について「色、食べ物、飲み物」などのカテゴリーのことばも使って「好きな食べ物は～です」のように話す練習をします。『にほんご えじてん』の「5. たべもの」では、「くだもの、やさい、りょうり、のみもの」などのカテゴリーで分けてイラストが載っていますから、それを指しながら、自分や家族の好きな物が言えるようにしていきます。

趣味は、ワークシートのイラストにも例が出ていますが、この他にもいくつかイラストを用意しておく、学習者はそこから選ぶことができます。まずは、自分や家族の趣味だけ覚えて言えればよいでしょう。ワークシートでは「すきなこと」になっていますが、「好きなこと＝趣味」と紹介すれば、「趣味は～です」と言えるようになります。

<One More Step>

自分や家族の好きな物、趣味などが言えるようになったら、他人の家族についても話せるようになるとよいでしょう。自分の家族と他人の家族では、家族名称の言い方が違ってきますので、使い分けられるようにします。

これまでの活動で使った家族写真やイラストを指しながら「わたしの父」「～さんのお父さん」、「わたしの妻」「～さんの奥さん」のように使い分けて、他人の家族の呼び方を紹介します。学習者同士でも、お互いの家族の絵を見せあいながら、同様の活動をしてみましょう。

使い分けがわかってきたら、支援者の家族写真を見せて、「～さんのご主人は何歳ですか」「～さんの娘さんの好きな果物は何ですか」のような質問をしてもらいます。これも、学習者同士でも、相手を替えながら質問し合うとよいでしょう。何度も声に出して繰り返すことで、使用語彙として定着していきます。

最後の仕上げとして、「こちらは〇〇さんです。〇〇さんのご家族は～」のようにして、クラスメートとその家族を紹介してもらおうとよいでしょう。

(参考： 『にほんご えじてん』 2. かぞく・ひと 5. たべもの)

◆ワークシート③ 自己紹介を書いて、話す

ワークシート①②で言えるようになったことをまとめて話せるようにします。文字学習がある程度進んでいれば、文レベルで書いてもらいましょう。一文ずつ、まず学習者が口頭で言ってから、それを書くという作業を繰り返します。表記の誤りが ないか、確認しながら行ってください。書き終えたら、音読してもらいます。覚えて話せるようになるまで練習することで、このユニットで学習した文型が身に付きます。

まだ、かな文字を書くことが難しい場合は、名前、出身国、来日時期、趣味など、単語レベルで書く練習をして、() に代入する形式で自己紹介文を仕上げます。これも、書き終えたら音読練習を繰り返して、覚えて話せるようにしましょう。

(参考： ユニット1 教材例① p. 94)

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- | | |
|----------------------|---|
| ・ 家族は3人です。 | _____は _____です。
(ワークシート①-1) |
| ・ 去年の9月に、家族と日本に来ました。 | _____に (_____と) _____に 来ました。
(ワークシート①-2) |
| ・ ミャンマーから来ました。 | _____から 来ました。
(ワークシート①-2) |
| ・ りんごが好きです。 | _____が 好きです。
(ワークシート②-1) |
| ・ 好きな果物はりんごです。 | 好きな_____は _____です。
(ワークシート②-2) |

<表現>

- ・ はじめまして。
- ・ どうぞよろしくお願いします。

ユニット 2

数えよう

<ねらい>

生活で使う数字を用いた表現を使うことができ、また質問ができる。

- ・時刻や「～時から～時まで」といった時間表現を言う／質問する。
- ・電話番号を言う／質問する。
- ・日付や曜日を言う／質問する。
- ・物の値段を言う／質問する。

日常生活のいろいろな場面で数字が使われています。このユニットでは、生活のどんな場面でどのように数字が使われているかを考え、数字を使った表現が使えるようにします。また助数詞についても学習します。

カバーページの使い方

カバーページ全体を見て、このユニットのテーマを皆で考えてみます。共通しているのは数です。日常生活で使う数を用いた表現であることに気づき、単語レベルでもよいですから、発話してみます。

- ・数字 1～100 が言えるように練習します。
0～10、10 単位（10、20、30・・・90）、1～100 と段階を追って導入・練習します。
- ・生活の中のどんな場面で数字が使われているか、カバーページを見ながら話し合ってみましょう。時刻、時間「～時から～時まで」、電話番号、物の値段、日付、曜日、誕生日、年齢などに数字が使われています。
- ・言えるものがあったら、言ってみましょう。質問の言い方「何時？」「何番？」「いくら？」「何日？」「何歳？」にも触れておくとよいでしょう。

ワークシートの使い方

◆ワークシート①－1

時刻「～時」「～時半」の言い方と時刻を質問する

小学生の算数セットやアナログ表示のおもちゃの時計、手作りの時計盤などを使用します。

・「～時」

短針を動かし、言ってみます。4 時、7 時、9 時は「よんじ」「ななじ」「きゅじ」にならないよう、注意が必要です。

次に質問文「何時ですか」と聞いて答えます。時計盤を使って、学習者同士で質問し合ってみましょう。

・「～時半」

「～時半」の言い方を練習します。

・「～時／～時半」

ワークシート①-1 の時計を読んでもみます。時計に長針、短針の針を書き、時刻を書きます。ペアで聞き合って記入してもよいでしょう。

使用教具：アナログ表示の時計。1 分単位の表示があるものが望ましいです。アナログ表示が読めない場合はデジタル表示の時計でもよいです。学習者にとって無理のない形で行ってください。

(参考：『にほんご えじてん』 1. きほんのことば)

◆ワークシート①-2

時刻「午前／午後 ～時～分」と自国の現在時刻を言う

・「いま なんじですか？」

「～時～分」と 5 分単位で言えるようにします。長針だけを動かし、支援者が 5 分、10 分、15 分・・・55 分と言って聞かせます。「ふん」「ぷん」の発音の違いに注目させ、どういうときに「ふん」「ぷん」になるか、学習者に考えてもらいます。時計盤で口頭練習後、ワークシートの時計の時刻を読み、記入します。ペアで聞きあってもよいでしょう。

・「おくには いま なんじですか？」

「午前」「午後」の言い方を紹介し、午前／午後をつけて時刻を言います。また学習者の国の現在時刻が言えるようにします。

日本の現在時刻を確認し、日本との時差を考えながら、学習者の国の現在時刻を学習者同士で聞き合ってみましょう。

(例)

「日本は今何時ですか。」 「午後 7 時 20 分です。」

「インドネシアは今何時ですか。」 「午後 5 時 20 分です。」

ワークシートに日本の現在時刻と学習者の国の現在時刻を記入します。

※「午前／午後」は時刻の前に来ることに気をつけましょう。

- ・「なんじから なんじまでですか。」

学校、職場の始業時間および終業時間や公共施設の業務時間、お店の営業時間の言い方を練習します。

「〇〇は××時から△△時までです。」

銀行、郵便局を例にして、何時に始まって、何時に終わるか言ってみます。「～から」と「～まで」を分けて、導入・練習してもよいです。

(例)

「銀行は午前 9 時から午後 3 時までです。」

「銀行は午前 9 時からです。銀行は午後 3 時までです。」

質問の仕方を練習します。「〇〇は何時から何時までですか。」

日本語教室の時間、区役所・市役所の業務時間、スーパーや身近な店の営業時間について学習者同士で質問し合います。

国での学校の始業時間と終業時間、郵便局、銀行、店の営業時間をお互いに聞き合って、日本やそれぞれの国を比べてみましょう。

ワークシートに記入します。

※ ワークシートではセンターの時間割を聞いていますので、状況に合わせて適宜替えてみてください。

<One More Step>

- ・分単位 (1 分～59 分) でも言えるようにします。

1 ぶん、2 ぶん、3 ぶん、4 ぶん、5 ぶん、6 ぶん、7 ぶん、8 ぶん、9 ぶん、10 ぶん

- ・いろいろな時間表現を紹介します。

3 : 00 「3 時ちょうどです。」

1 : 55 「2 時 5 分前です。」／「あと 5 分で 2 時です。」
／「もうすぐ 2 時になります。」

4 : 10 「4 時 10 分過ぎです。」／「4 時を 10 分過ぎました。」

9 : 28 「もうすぐ 9 時半です。」／「9 時半になります。」

◆ワークシート②ー 1

電話番号を言う／電話番号を聞く

- ・電話の種類

ワークシートのイラストを見て、どんな種類の電話(固定電話、携帯電話・スマホ、公衆電話など)があるか、使ったことがあるかなどを話し合います。

- ・電話番号の言い方を練習します。

0 3 - × × × × - × × × ×

0 4 2 4 - × × × - × × × ×

0 9 0 - × × × × - × × × ×

0 8 0 - × × × × - × × × ×

- (ハイフン) は「の」を入れて読むとわかりやすいので、入れて読む練習をします。「0 3 の × × × × の × × × ×」

- ・電話番号の質問の仕方と答え方を練習します。

「〇〇の電話番号は何番ですか。」「0 3 - × × × × - × × × ×です。」

日本語教室やクラスメートの電話番号を聞き、ワークシートに記入します。

※ ワークシートではセンターの電話番号になっていますが、日本語教室などふさわしい場所に置き換えて行ってください。

<活動例>

①会話練習

ペアで口頭練習します。聞き取れなかったときは、「もう一度お願いします／ゆっくりお願いします／書いてください」などの表現を紹介し、実際に使ってみましょう。

A:	すみません、〇〇さんの電話番号は何番ですか。
B:	0 8 0 - × × × × - × × × ×です。
A:	すみません。もう一度お願いします。
B:	0 8 0 - × × × × - × × × ×
A:	ゆっくりお願いします。
B:	0 8 0 - × × × × - × × × ×
A:	0 8 0 - × × × × - × × × ×ですね。
B:	ありがとうございます。

②インフォメーションギャップ

教室の近くの駅、スーパー、家電量販店、ファミレスなどの電話番号を事前に調べ、AとBのシートにそれぞれ記入しておき、ペアでわからない電話番号を聞き合って用紙に記入します。最後にお互い合っているか用紙を見せ合って、確認しましょう。

A	
〇〇駅	×××-××××
ファミレス〇〇	
〇〇遊園地	×××-××××
スーパー〇〇	

B	
〇〇駅	
ファミレス〇〇	×××-××××
〇〇遊園地	
スーパー〇〇	×××-××××

<Information>

- ・緊急電話の電話番号（警察 110、消防 119、救急 119）
スマホの画面での緊急のボタンの位置を確認しましょう。
- ・携帯電話、スマホの電話番号のはじめは 090、080、070 などが付きます。
- ・0120 で始まる電話番号はフリーダイヤルです。

<One More Step>

緊急時の会話

ロールプレイ（役割練習）をしてみましょう。

（例 1） 警察（110）

110：警察です。
事故ですか、事件ですか。
タン：交通事故です。
110：いつですか。
タン：今です。
110：それはどこですか。
タン：〇〇銀行の前です。
110：どのような状況ですか。
タン：女の人が倒れています。車は逃げました。
110：お名前とご住所とお電話番号をお願いします。
タン：タンです。
〇〇町 6 丁目 × × の × × です。
電話番号は 080-××××-××××です。
110：ただいま行きます。

（例 2） 消防（119）

119：119 番、消防署です。
火事ですか、救急ですか。
タン：火事です。
119：お名前とご住所をお願いします。
タン：タンです。
〇〇町 6 丁目 × × の × × です。
119：近くに何がありますか。
タン：図書館があります。
110：今お使いの電話番号を教えてください。
タン：080-××××-××××です。
119：何が燃えていますか。
タン：図書館の隣の家が燃えています。

（例 3） 公衆電話の使い方

非常時に携帯電話が使用できない場合に備えて、公衆電話の使い方を教えましょう。

◆ワークシート③-1

お金を数える・物の値段を言う／値段を聞く 1

硬貨、紙幣の種類を知り、お金を数えられるようにします。また物の値段を尋ねたり値札を読んだりすることができるように練習します。

・大きい数

100 以上の大きい数が言えるように練習します。

1 万以上は、4 桁ごとに万、億、兆と単位が変わることを伝え、その規則に則って
言えるようにしましょう。

・お金

硬貨、紙幣の種類を言えるようにします。

1) 実物のお金やおもちゃのお金を見せ、「～円」と言えるように練習します。

2) ワークシート (③-1) にお金を数えて、記入します。

※ ワークシート (③-2) にも同じようにお金を数えて記入するものがあります
ので、一緒にまとめて行ってもよいです。

※ 「えん」の発音が英語読み yen にならないように注意します。

・「いくらですか？」

物の値段が言えるように練習します。「いくらですか」と聞いて答えます。

商品に付いている値札を見せて、学習者同士質問してもよいでしょう。

・「スーパーでしらべてみましょう！」

実際にスーパーで調べてみる設定になっていますが、学習者同士質問し合って、お
およその値段で答えてもよいでしょう。

値段を記入し、正しく聞き取って書けたか、お互い後で確かめましょう。

(参考: 『にほんご えじてん』 1. きほんのことば)

◆ワークシート③-2

物の値段を言う／値段を聞く 2

・「いくらですか？」

硬貨や紙幣が混ざった複数のお金を数えて記入します。

おもちゃのお金を使って、学習者同士で出題してもよいでしょう。

・「いくらですか? よんで みましょう。」

値札を読む練習をします。

スーパーや家電店のチラシを持ってきて、読む練習をします。ペアで一人がチラシ
の品物の一つを指して、「いくらですか」と聞き、もう一人がその値段を言います。
家電製品は大きい数を読む練習になります。

<Information>

値段の表示には消費税が含まれているもの（内税）と含まれていないもの（外税）があり
ます。実際の値札やレシートを見せて、確認しましょう。また消費税率についても確認し
ましょう。

<One More Step>

スーパーのチラシを使って、「1 パック、1 袋、1 束、1 箱、1 株、1 玉」などの助数詞を紹

介します。

◆ワークシート④-1

日付、曜日を言う／質問する

- ・日曜日から土曜日まで言えるように練習します。

順番に言えるようになったら、ランダムにカレンダーを指して言ってみます。

※ 替え歌で楽しく覚えることができます（♪「幸せなら手をたたこう」のメロディで）

月曜日 火曜日 ♪♪ 水曜日 木曜日 ♪♪ 金曜日 土曜日 日曜日

さあ、今日は 何曜日 ♪♪

（明日、昨日などに変えて質問してもよいでしょう）

- ・月の名前が言えるようにします。

カレンダーを使って、～月が言えるように練習します。

※4月、7月、9月の発音に注意しましょう。

- ・日付が言えるようにします。

特殊な言い方ではない日付から練習します。

11日、12日、13日、（14日は飛ばして） 15日、・・・ 31日

「にち」がつくことに注目させます。

規則がわかってから、1日～10日、14日、20日、24日の特殊な言い方を練習します。ワークシートにある色付きカレンダーを見て、似ている発音をまとめて練習すると覚えやすいです。

3日—4日—14日—24日

8日—10日

2日—5日—20日

7日—9日

1日

6日

- ・時を表すことば

今日—あした 今日—昨日

できるようになったら、「おととい」「あさって」も紹介します。

- ・「今日は何月何日何曜日ですか」

質問をして答えます。「今日」を「あした」「あさって」「昨日」「おととい」に替えて質問します。教室であれば、毎回ボードに日付を書いて、言ってみます。またノートにその日の日付を書くようにします。毎回繰り返し QA をして覚えるようにしましょう。

<活動例>

『にほんご えじてん』 1-11 カレンダー②を見て、さらに時を表すことば「今年、去

年、来年、今月、先月、来月、今週、先週、来週」などを導入します。

またカレンダーを見せて、「来週の水曜日は何日ですか」「先月の31日は何曜日でしたか」など質問を広げることができます。

さらに四季を導入して、何月から何月までがどの季節であるか確認します。

(参考： 『にほんご えじてん』 1. きほんのことば)

◆ワークシート④-2

誕生日を言う／質問する

誕生日の言い方を学び、自分や家族の誕生日が言え、また他の人の誕生日を聞くことができるようにします。

- ・「わたしの たんじょうびは _____ 月 _____ 日です。」

誕生日の言い方を練習します。

- ・「まわりのひとに たんじょうびを ききましょう。」

周りの人に誕生日を聞き、表に記入します。

最後に叙述文「〇〇さんの誕生日は～月～日です」と発表します。

- ・「わたしの かぞくの たんじょうび」

例文と同じように、自分の家族の誕生日や年齢を書いてみます。家族名称の復習にもなります。書いたら、皆の前で発表しましょう。

◆ワークシート⑤-1、⑤-2

助数詞を付けて人や物の数を言う

- ・いろいろな物の種類によって数え方（助数詞）が違うことを知り、助数詞を付けて数えられるようにします。

レアリアや写真の切り抜きなどを使って、実際に数えてみます。3、6、8など音便が変わるものに注意しましょう。

それぞれの疑問詞（いくつ、何人、何枚、何本など）も質問できるように練習します。

- ・ワークシートの表の空欄に適した数と助数詞を記入します。

※ 一度にたくさんの助数詞を導入するのが大変な場合は、学習者が日常生活で必要と思われるものを選んで行なってもよいです。

(参考： 『にほんご えじてん』 1. きほんのことば)

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

「何時」「何番」「いくら」「何月」「何日」「何曜日」「いつ」などさまざまな疑問詞が出てき

ます。整理して覚えるようにしましょう。

・今何時ですか。

9 時です。

何時ですか。

_____ 時です。

(ワークシート①－1、①－2)

・授業は何時から何時までですか。

9 時から 4 時までです。

_____ は 何時から 何時までですか。

_____ 時から _____ 時までです。

(ワークシート①－2)

・センターの電話番号は何番ですか。

0 3－××××－××××です。

_____ の 電話番号は 何番ですか。

_____ です。

(ワークシート②)

・りんごはいくらですか。

90 円です。

_____ は いくらですか。

_____ 円です。

(ワークシート③－1)

・誕生日は いつですか。

3 月 19 日です。

_____ は いつですか。

_____ 月 _____ 日です。

(ワークシート④－2)

ユニット 3

何がある？誰がいる？

<ねらい>

身の回りにある物の名前、付き合いのある人の名前を覚え、日ごろの会話で使うことができる。

- ・日常的に使っている物の名前、使用する場所の名前などを言う。
- ・日々接している人の名前や仕事を言う。
- ・必要な物があるかないかを聞いたり答えたりする。
- ・探している人がいるかいないかを聞いたり答えたりする。
- ・物のある場所、人のいる場所を聞いたり答えたりする。
- ・人・物の数量的表現が必要な助数詞を使って言う。

身の周りにある物の名前や日ごろ接している人の名前を覚えるのはなかなか大変ですが、少しずつ繰り返し覚えていくことで、話せる話題が広がっていきます。このユニットでは「あります／います」の文型とともに、身近にある物の語彙を増やしていくことを目的としています。

カバーページの使い方

このカバーページは学習に入る前に、学習者がどの程度身の周りにある物の名前や表現を理解しているかをチェックするためと、ユニット学習を終えた後、学習者がどのくらい言えることが増えたかを実感してもらうために作成しました。

学習前には2枚ずつセットになっているカバーページのイラストを見比べながら、気がついたことがどの程度言えるか話してもらってください。

チェック項目としては以下のようなものです。

- ・覚えて使える名詞はどんな物があるか

カバーページの中にある名詞は以下のようなものです。

家 部屋 教室 机・いす 時計 皿 財布 交番 子ども（男の子・女の子）
男の人・女の人（お父さん・お母さん） バナナ りんご 自転車 警官

- ・「あります／います」の概念を理解しているか、「あります／います」を正しく使い分けられているか。
- ・「ひとつ・ふたつ、ひとり・ふたり、少し、たくさんの、全然…ない」などの助数詞や

数量的な表現を理解し、使えるか

※「あります／います」が日常生活では普通体の「ある／ない」のほうをよく耳にする学習者もいるので、どちらも紹介しておきましょう。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① (場所) に～があります／います

このユニットでは文型として「あります／います」を扱いますが、はじめから2つの動詞を混ぜて使うと混乱する恐れがあります。まず「あります」で練習し、それが使えるようになってから、「います」に入ります。

(参考： 『にほんご えじてん』 2. かぞく・ひと 3. センター 4. いえ)

「あります」の意味はそれまで「〇〇です」の表現しか学習していない場合、「〇〇があります」と聞いても「〇です」と「〇があります」の違いが明確にはなりません。おはじきを片手に握り、「どっちに入っているか」のゲームをしたり、教室内にないものを学習者に探してもらい、ないことを意識したときに「ありません」を導入して、「あります／ありません」の意味を理解してもらいます。

- ・センターでは教室にある物の名前を学習することから始めます。実物や『にほんご えじてん』のイラストを見て、「教室に〇〇がありますか。はい、あります／いいえ、ありません」のやりとりを行います。
- ・その後で、センターではセンター内を移動し、教室内だけでなく、センターの事務室、ラウンジ、保育室なども回って、それぞれの場所にある物を確認します。教師・支援者－学習者だけでなく、学習者同士でもQAを行います。地域の日本語教室の場合、教室が開かれる会場を実際に回って、知りたいことば、必要だと思われることばを確認しましょう。その後、見取り図などを使って復習するとよいでしょう。子どもがいる人は通っている学校の見取り図や写真を使って必要なことばを増やしていきましょう。

(参考： ユニット3 教材例① p. 98)

- ・それから、「(場所…教室、ラウンジ、事務室)に 何がありますか。」のQAをして、学習者が言いたそうなきをとらえて、「名詞と名詞」を紹介し、練習します。学習者が助詞「と」を使ってたくさんの物を述べる意欲を見せたら、そのときに代表的な物だけを紹介する助詞「や」を使って省エネする言い方を紹介します。

・十分に「あります」の練習ができれば、ホワイトボードの片側にこれまで学習した物のイラストカードを貼り、反対側に「男の人、女の人、子ども、犬、猫」などのイラストカードを貼ります。イラストを指しながら、「机があります、椅子があります・・・」と聞かせた後に、「子どもが・・・」と続けると、流れで学習者は「子どもがあります」と発話するので、そこで、×サインを出し、「子どもがいます。男の人がいます。犬がいます・・・」と「います」を紹介し、しばし、考えてもらいます。学習者が正しく使い分けのルールに気づいたら、「あります」の練習と同様に QA をしながら、日ごろ関わりのある人の名前や人に関する名詞で「います」の練習をします。「あります／います」の使い分けは、この段階では「自分で動けるもの／動けないもの」として理解できればよいでしょう。センターではここで、日々の世話をしてくれるスタッフや担当教師の名前、学習者、学習者の家族などの名前や役割がスムーズに出るように練習に取り入れています。

・やりとりを重ねていく中で、「何ありません」「誰もいません」を答えなければならない状況を作り、新しい言い方として紹介しますが、学習者のレベルによってあまり負担になるようであれば、紹介にとどめてもよいでしょう。

・「あります／います」の使い方を整理するために、前述のイラストカードを使って、ホワイトボードに分類したり、教材例② (p. 99) に書き込んだりして、使い分けを確認しましょう。
(参考： ユニット 3 教材例② p. 99)

・最後に文字学習としてワークシート①に記入して、表記の確認をしましょう。

◆ワークシート② 場所の詳しい言い方 (位置詞)

- ・教室、事務室、ラウンジ、家の中の居間、台所、トイレ、風呂場など場所の名前に慣れたら、次に位置詞（上、下、中・・・）を使ってより詳しい場所の言い方を学びます。教室内の本、椅子、箱などを使って実際に目で見ながら、「～の上／下／中 にあります」の言い方を練習します。語順が母語と異なる場合、「×上の椅子（椅子の上）」との言い間違いも生じるので、実物を見ながら語順を確認して練習することが大切です。
- ・「前、後ろ、右、左」は相対で行うと混乱が起きる可能性があるなので、はじめは教師・支援者と学習者が同じ向きになって練習します。
- ・支援者－学習者、学習者同士で「〇〇はどこにありますか。」「～の上／下・・・にあります。」「〇〇さんはどこにいますか。」「～の前／後ろ／右・・・にいます」のやりとりを十分に行って、練習します。
- ・QA を通してスムーズに言えるようになったら、ワークシート②－（１）を読みながら確認してワークシート②－（２）に書いて表記を確認します。

<One More Step>

- ・物によって助数詞を使い分けることを大変だと感じる学習者も少なくありません。そんなときは詩や歌などを利用して練習すると楽しくなります。センターでは谷川俊太郎の詩「むし・ほし・ひと」を使って皆で暗唱してイメージとリズムを楽しみながら、助数詞に慣れていきます。余裕のある学習者にはオリジナルの言い換え作品を作るなどしてクラス内で発表して楽しんだりしています。

参考：「むし・ほし・ひと」 『ぼくは ぼく』 谷川俊太郎（童話屋）
「いっぽんでもニンジン」 作曲 佐瀬寿一 作詞 前田利博
「10人のインディアン」 作曲 セティマス・ウィナー 日本語歌詞 高田三九三

◆ワークシート③ 位置詞の練習

- ・イラストを見ながら、まず口頭で質問例にあるようなやりとりを行い、混乱なく位置詞が使えるよう練習します。質問に答えるだけでなく、学習者が Yes-No Question、疑問詞を使った質問文、どちらもスムーズに作れるように十分に練習してください。その後、文字学習としてシートの質問文に答えを記入して表記の確認をします。

<One More Step>

- ・町の中の道案内によく使われる「～のそば／反対側／先／手前・・・」など詳しい説明の仕方を紹介しておく、と、「ユニット7 町へ出かけよう」の学習にも役立ちます。まず、支援者が地図やイラストを用いて学習者が知りたい店や施設の場所の説明をして、新しい言い方を聞き取ることからはじめてみるといいでしょう。新しい表現になれば、学習者自身が説明する練習をしましょう。
- ・間違い探しのプリントなどを使ってどこが違うかを発見したら、それを言葉でどう説明したらいいか、クイズ形式を取り入れた学習も楽しいでしょう。

◆ワークシート④ 疑問詞の練習とフルセンテンスの文型練習

- ・イラストを見ながら、自由に文を作ってみる練習です。疑問詞を使った短文のやりとりだけでなく、フルセンテンスで叙述する練習もしておく、とユニット7「町へ出かけよう」、ユニット16「自国紹介」など、自分の住んでいる地域の様子やふるさと、町の説明をするときに役立ちます。
- ・ここでは疑問詞は「何、誰、どこ」しか出していませんが、数量を問う「いくつ、何人、どのくらい」も学習者のレベルに合わせて練習してください。

（例）

教師・支援者：冷蔵庫の中に何がありますか。

学習者： りんごがあります。

教師・支援者：いくつありますか。

学習者: 3つあります。

→ 冷蔵庫の中にりんごが3つあります。

◆ワークシート⑤ 説明文を読んで内容を正しく理解する

- ・住んでいる地域の紹介をこのユニットで扱った文でまとめた作文です。初歩的なレベルでは日常的なやりとりをスムーズに行う練習が中心となりますが、少しずつある程度まとまった内容の文章に慣れていくことも大切です。はじめは黙読してもらい、内容理解のQAを行います。正しく理解できたら、説明文を声に出して読んでみましょう。聞いている人にわかるように読めることも大切な練習です。
- ・例にあげたワークシート⑤の下線を引いた枠は上の作文にならって、自分の住んでいる場所の近くを説明する練習のためのものです。まずは口頭で自分の住んでいる場所を説明してみましょう。何を言っているかわからない戸惑っている学習者には支援者が答えを誘導する質問文を作り、まず一つひとつ答えを言ってみましょう。その質問の答えを並べると例にあげた説明文になるような質問をしていってください。最後にその答えを書いて、説明文として完成させましょう。問題なくできる学習者の場合はふたつの質問の答えをまとめて、主語を省いたり、接続詞を使ったりして、効率よくまとめてみる練習も取り入れてください。文字学習が進んでいない学習者は口頭でやりとりした答えをまとめて通して言う練習をしましょう。日常的なやりとりには慣れてきた学習者もまとまった内容について話したり、書いたりする機会が少ないので、完成した説明や作文を見てこれだけのことが言えるという満足感を味わうことも少なくありません。

◆ワークシート⑥ 数量的表現のまとめ

- ・ワークシートに入る前に、まず助数詞の復習をします。「～が（数量）あります／います」の語順で、ユニット2「数えよう」の助数詞を使って言う練習をするとよいでしょう。疑問詞は「いくつ」「何人」「どのぐらい」など負担にならない程度に紹介して、聞いたり答えたりできるように練習してください。
- ・ワークシート①～③を読んで、確認します。

※このユニットの学習を振り返る意味で、カバーページに戻り、イラストの説明をしてみると言えることが増えたことを実感できるでしょう。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- ・教室に何がありますか。

_____に 何が ありますか。

机があります。 _____が あります。
事務所に誰がいますか。 _____に 誰が いますか。
田中さんがいます。 _____が います。

(ワークシート①)

・コンセントはどこにありますか。 _____は どこに ありますか。
テレビの後ろにあります。 _____に あります。

(ワークシート③)

・椅子の上／下・箱の中・テレビの前／後ろ・男の子の右／左
_____の _____

(ワークシート②)

<表現>

・誰がいますか。
誰もいません。
・何がありますか。
何もありません。
・どのぐらいありますか。
たくさん／少し あります。
全然ありません。

(ワークシート⑥)

ユニット 4

買い物

<ねらい>

店で、品物の値段や売っている場所を理解し、欲しい物を買うことができる。

- ・商品の名前や店の名前を知り、どこで何を売っているかがわかる。
- ・スーパーなどの店で必要な物を買う。
- ・簡単な家計簿を付ける。
- ・自分や他の人の買い物について、簡単に説明したり、書いたりする。

近年はスーパーやコンビニなどが発達し、あまりことばを使わなくても物を買うことができるようになりました。しかし、物の名前や値段を知り、売り場を探して本当に欲しい物を買うことは、それほど簡単なことではありません。このユニットでは、日常生活において欠かせない行動である買い物が、満足できるものになるように学習していきます。また、貨幣経済に慣れていない難民キャンプ出身の方に経済観念を付けてもらうように簡単な家計簿の付け方も学習します。

買い物をするには商品の値段を知ることが第1歩です。数字を学習してからこのユニットに入るとよいでしょう。数字の学習が進んでいない場合はユニットの学習と並行して行います。商品の名前を覚えるのは大切ですが、商品の数は切りがありません。商品名の学習はそれぞれの学習者のニーズに合わせて取捨選択します。学習者にとって必要な商品を扱うようにしましょう。

カバーページの使い方

- ・カバーページには買い物場面が写真とイラストで紹介されています。まず、ウォーミングアップとして、学習者がどのような物を、どこで買うかを話題にして話してみましょう。「昨日は何を買いましたか。」「どこで買いましたか。」「それはいくらでしたか。」「日曜日は？」などと、具体的に聞いていくとよいでしょう。
- ・実際に商品を買う場面を作り、支援者が店の人になって、やりとりをするいわゆる「買い物ごっこ」は、通常はもう少し後で練習するものだと思います。しかし、このユニットでは買い物のイメージを具体的につかんでもらうために、カバーページに買い物場面があります。上手にできなくてもよいですから、このページに出ている表現だけでも、言えるように練習し、このユニットで買い物について学習するのだと理解してもらいます。このユ

ニットがすべて終了したら、このカバーページに戻って、もう一度買い物ごっこをするのもよいでしょう。最初にカバーページを扱ったときと同じことをもう一度扱う、あるいは少し複雑な買い物ごっこに変えるなど、学習者の日本語力に合わせてください。

- ・イラストを見ながらひとつずつ場面と、その場面で何と言っているか確認していきます。学習者が写真やイラストを見て、場面がわかりにくいようなら、場面説明が必要ですが、すぐに説明しないで、まず、「ここはどこですか。」「何をしていますか。」「この人はなんと言っていますか」など一つひとつ指さしながら学習者の知識を引き出していきます。

- ・左上の写真（左上の写真を指さしながら会話形式で進めます。）

支援者：「ここはどこですか。」

学習者：「店です。」

支援者：「そうですね。店ですね。これは何ですか。」

学習者：「・・・まめ？」

支援者：「はい、これは『まめ』です。これは？」

いろいろな野菜を指し、名前を聞いたり、好きか、買ったか、などを聞いたりしていきます。

支援者：「これは何ですか。」（女の人が、持っている物を指さしながら）

学習者：「・・・？」

支援者：「これは、かぶです。女の人のかぶを買いたいです。100 円ですか、130 円ですか、女の方はわかりません。店の人に聞きます。何と聞きますか。」

学習者：「(かぶは) いくらですか。」

(答えられないときは、吹き出しを読んでもらってもよいです。)

- ・右上の写真

「魚」に関しても「かぶ」と同様に行い、「魚はいくらですか。」を導きます。

※ 左上の写真（八百屋）で学習したことが、右上の写真（魚屋）で応用できず、「いくらですか。」が出てこなければ、左上の写真（八百屋）を示し思い出してもらいます。

<活動例>

（買い物ごっこ）

- ・中央左のイラストを見て、買い物場面を理解します。買い物するときの表現「～をください」を練習したら、おもちゃの野菜やくだもの、魚などを用意して、「〇〇をください」と学習者が言い、支援者が「〇〇ですね。はい、どうぞ」などと言って、〇〇を渡すという買

い物ごっこをしても楽しいです。

- ・品物は値段を決めておきますが、値段はポストイットなどに書いておいて品物にはまだ貼らないでおきます。学習者が「これはいくらですか」と聞いたら「300 円です」と答えて値段を貼ります。いろいろな物の値段を聞くように促します。
- ・支援者が「〇〇はおいしいですよ。」学習者が「△はいくらですか。△△はいくらですか。」
「△をください。」と会話が続けばさらによいでしょう。
- ・売り場を聞く
左下のイラストと写真を示して、物を探している場面を理解します。
支援者：「卵を買いたいです。卵がありません。どこですか。わかりません。何と言いますか。」答えられなかったら吹き出しを読んでもらってもよいです。
- ・レジ
右下のイラストや写真を示して、会計の場面を理解します。「ここはどこですか。」と聞きます。「ここでお金を払います。」レジ、会計などの言葉を紹介します。

<One More Step>

- ・前述の買い物ごっこで使用した物を机や棚などに並べて、どこにあるかを聞く練習をしてみましょう。スーパーやデパートの簡単な案内図などのイラストを使ったり、ホワイトボードに板書したりしてもよいでしょう。「～の前、～の後ろ、～列目、～段目」などの表現が使えなかったら、ここでは、指さして、「あそこ（あちら）です。」などでよいです。まずは「すみません。〇〇はどこですか」と聞ければよいでしょう。

<活動例>

買い物場面を通して練習をします。

- ・T シャツを買う場面のイラストや前述の実際の物を利用して、カバーページで学習した買い物のことばを通して使ってみましょう。

学習者：「すみません。〇〇はどこですか。」

支援者：「あちらです。」

学習者：「〇〇はいくらですか。」

支援者：「400 円です。おいしいですよ。」

学習者：「〇〇をください。」

支援者：「ありがとうございます。お会計は 1,200 円です。」

- ・数の学習が進んでいるなら、値段を聞いて実際におもちゃのお金を払ってもらおうと、より臨場感が出ます。学習者の力に合わせて、2 つ以上買ってもらったり、お釣りを出したりなど、買い物ごっこのレベルは調整してください。このユニットが終わったら、このカバーページに戻って練習しますから、ここではシンプルな表現であまり欲張らないのがよいと思います。おもちゃのお金や野菜・果物・魚などは 100 円ショップのお店でも売っていますが、『にほんご えじてん』やイラストを活用するのもよいでしょう。

(参考： 『にほんご えじてん』 5. たべもの 8. まち)

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 物の名前を聞く

ワークシート①には 1 から 28 まで、野菜やパン、魚、肉、文房具などいろいろな物が並んでいます。一つひとつの名前をすぐに紹介するのではなく、まず、名前を知っている物があるか聞いてみましょう。支援者が「すみません。これはなんですか。」と学習者が知っていそうな物を選び、指さして聞いていきます。

<活動例>

- ・このワークシートを使って、学習者が名前を知りたい物を指さし、「すみません。これはなんですか」と聞いてもらいます。この場合もすぐに答えを紹介するのではなく、誰か知っている人がいないか聞いて、誰も名前を知らなかったら紹介するようにしましょう。誰も答えないからといっても、恥ずかしがって発言しないだけかもしれませんから、「〇〇さん、これは何ですか。」と聞いてみるのもよいでしょう。クラスで学習する場合、なるべく双方向になるよう、なるべく多くの学習者が発話できるようにします。
- ・『にほんごえじてん』を使っても同じ活動ができます。語彙を広げるためにも活用してください。

(参考： 『にほんご えじてん』 5. たべもの 8. まち)

- ・名前を紹介すると学習者は覚えたい物の名前をメモします。うまく書けない場合は板書するなどサポートしますが、まずはきちんと名前を発話することを優先させてください。

<One More Step>

- ・スーパーのチラシ（あまり商品の多くないシンプルな物）を使って、知りたい商品を指さしながら名前を聞きます。学習者がどんな物の名前を知りたいのかがわかり、意外な発見があります。「これはいくらですか。／ひとつ（一袋・1 パック）いくらですか。」など値段の聞き方の復習もできます。スーパーのチラシは情報量が多いので、学習者の日本語力に合わせて、使ってください。

◆ワークシート②ー1

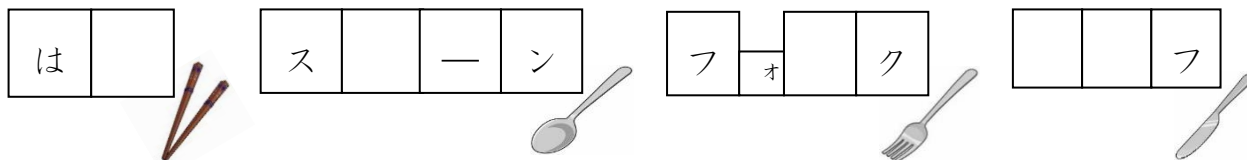
物の名前を覚え、書く（食べ物・飲み物）

- ・まずは物の名前を何度も発音して口頭でスムーズに言えるようにしたら、次は書いてみます。記憶が整理されて覚えやすくなります。ワークシート②ー1は例ですから、学習者がよく使う、必要とする物の名前を書いて覚えましょう。一文字（長音含む）一マス、促音は小さいマスを使っていますので、このマスに一文字ずつ入れてください。ひらがなとカタカナの語彙を混ぜていますが、カタカナで書く物はカタカナで書くように支援します。

◆ワークシート②ー2

物の名前を覚え、書く（調味料・台所にある物）

- ・ワークシート②ー2では調味料4つと、台所にある物を12個取り上げています。ワークシート②ー1と同じように学習します。カタカナは苦手とする学習者が多いので、丁寧に支援します。文字学習が進んでいない学習者は、下のように穴埋めの形にして、文字の一部のみ書いてもらおうとよいでしょう。また、『にほんご えじてん』も活用して、学習者が必要とすることばを補強してください。



（参考：『にほんご えじてん』 5. たべもの 8. まち）

◆ワークシート③

店の名前を覚え、どこで何が買えるかを知る

- ・ワークシート③は、まず代表的な店の名前を覚えます。「これは魚屋です。魚屋で何を買いますか。」と聞きながら紹介していきます。イラストが手助けになります。全て紹介したら、クイズのように楽しみながら、店と商品のマッチングを行います。
- ・マッチングができれば、「八百屋で何を買いますか」と聞き、次の文を言えるように練習します。文の形を板書などして示してもよいでしょう。

※ 助詞に注意させるなら助詞を太字や大きくしたり、色分けしたりするなど視覚的にわかりやすく示します。

八百屋で 野菜を 買いました。

- ① 意味にフォーカスを置く場合 イラストを使って、入れ替えて練習します。



で



を

かいました。

- ② 文の形を取り出す場合

「～○○ で △△ を かいました。」

電気屋で・・・、薬屋（薬局）で・・・、と同じように練習します。

・薬局と薬屋

パン屋、魚屋、肉屋となっていますから、薬屋のほうが発音もしやすく、わかりやすいかもしれません。しかし、薬局も一般的に広く使われていますから、薬局の方を紹介する、あるいは両方紹介するなどしてください。

・まとめ ワークシート③の下に、まとめとして書く練習があります。

スーパー で _____ を 買いました。

← スーパーでは何でも売っていますので、学習者に自由に発話してもらいます。

野菜（「にんじん」「トマト」などでも OK）肉（「鶏肉」、「豚肉」などでも OK）

パン、魚、油、塩、砂糖などいろいろな商品を入れて発話します。

_____ で _____ を 買いました。

← 今度は店の名前と商品の両方を入れます。まずは口頭で言ってみましょう。

「薬で、薬屋（薬局）を買いました。」「薬屋で魚を買いました。」などのミスもありますから、注意してください。

<活動例>

自分が買ったものについて、まとめとして上のように書いてみましょう。学習者の日本語力に合わせて、「いつ、いくつ買ったか、いくらだったか」などの情報を加えて話してもよいでしょう。話し終わったら、ワークシート③のように書いてみます。書いたら、文字表記のミスをチェックし、完成した文を読んで発表してもらおうとよいでしょう。

◆ワークシート④ 自分が買った物について領収証に書かれている情報がわかる

- ・ワークシート④のイラストを  の順に見ていきます。

右上のイラストを指しながら聞いていきます。

以下のような答えが出なかったらヒントを出してみましょう。

支援者：何ですか。

学習者：財布です。

支援者：いくらですか。

学習者：1,000 円です。

支援者：そうですね。財布の中に 1,000 円あります。どこですか。

学習者：スーパーです。

支援者：1,000 円持って、スーパーに行きます。

スーパーで何をしますか。（イラストを指さす。）

学習者：買い物をします。

支援者：はい、スーパーで買い物をします。

何を買いましたか。

学習者：バナナとリンゴを買います。

支援者：バナナはいくらですか。リンゴはいくらですか。

リンゴをいくつ買いましたか。（などと一つずつ聞いていく。）

学習者：はい、バナナとリンゴを2つ買いました。

支援者：どこに行きますか。（イラストを指しながら）

学習者：レジに行きます。

支援者：はい、レジに行って、お金を払います。

会計します。（レジでお金を払います）

※ ふじスーパーの領収書を見る前に

支援者は「バナナとリンゴを2つ買いました。バナナは200円、リンゴは1つ130円です。全部でいくらですか。」と聞き、460円を導きだしておくといよいでしょう。次に「お財布の中にいくらありましたか。」と聞いて、「1,000円ありました」を思い出してもらいます。次に「460円買いました。お釣りはいくらですか」と聞きます。学習者が540円と答えられれば、よいですが、わからないときは、おもちゃのお金などを使って、実際にお金を使ってお釣りを数えてみましょう。イラストも参考にしてください。

- ・ ふじスーパーの領収証（レシート）を指して、支援者が「これは領収証、レシートです。」（両方のことばを紹介するとよいと思います）書いてあることを一つひとつ指しながら読んでいきます。

- ・ 読んだ後、レシートに書かれている内容を理解しているか、内容理解の質問をします。

（質問例）

「これは何ですか。」

「どこで買いましたか。」

「〇〇スーパーの電話番号は何番ですか。」

「いつ買いましたか。」

「何時に買いましたか。」

「何を買いましたか。」

「何点買いましたか。」

「バナナはいくらですか。」

「リンゴはいくらですか、リンゴは2つでいくらですか、全部でいくらですか。」

「いくら出しましたか（払いましたか）」

「お釣りはいくらですか。」

※ それぞれの答えが領収証のどこに書かれているか、しっかり指さしながら進め、学習者と確認していきます。

<活動例>

- ・学習者が持っているレシートを出してもらい、どこで何を買ったか、いくら払って、お釣りはいくらだったかなどを話し合ってみましょう。ワークシート⑤の家計簿を付けるにあたっての準備学習になります。
- ・カタカナや漢字で読めない文字は支援してください。実際に自分が買った物ですから、商品名が読めれば、それが何であるか理解しやすいです。高かった、安かった、これはおいしかったなど、買った物について話をしてもよいでしょう。

<One More Step>

- ・いろいろなレシートから基本的な情報を読み取ることができ、レシート読みに慣れてきたら、自分が買った物についてクラスで発表してもらってもよいでしょう。ワークシート③で、まとめとして書いたことを思い出してもらいましょう。
- すべてを発表してもらうのではなく、学習者が発表したいものを選んでもらうようにします。コンビニやスーパーで買ったおにぎりや飲み物など、当たり障りのない物を発表してもらうとよいでしょう。



買ったことや買った物をクラスメートに知られたくない場合もありますから、発表してもらうときは配慮が必要です。

◆ワークシート⑤-1

買い物について簡単な文を読み、同じ形式で書く

- ・学習したことを思い出してもらい、ワークシート④のイラストやレシートを見てもよいです。この買い物について、叙述してみます。最終的にはワークシート⑤-1 上半分に書いてあるようなことが言えればよいですが、学習者が言えない場合は、以下のようにワークシート⑤-1 上半分に書いてある文が答えとなる質問をしていきます。

(質問例)

「きのう どこに行きましたか。」 ➡ 「きのう スーパーに 行きました。」

「財布にいくらありましたか。」 ➡ 「財布に 1000 円ありました。」

「スーパーで何を買いましたか。」 ➡ 「スーパーでバナナとりんごを買いました。」

「全部でいくらでしたか。」 ➡ 「全部で 460 円でした。」

「今、財布にいくらありますか。」 ➡ 「今財布に 540 円あります。」

- ・ 上半分の文を読みます。クラスメート全員でゆっくり読んだ後、一人一行ずつ読んだり、二人で読んだり、最後は一人で全部読んだりなどして、滑らかに読めるように練習しましょう。

※ 文を読む前に、口頭で話しておく、と、読解がスムーズにいき、理解も進みます。

・ ワークシート⑤-1 下半分

上半分で学習したことを基に、今度は自分が買った物について簡単な文を書きます。穴埋め形式になっていますから、上半分をよく見ながら、どこに何が入るかを支援します。書けない学習者にはアンダーラインのその箇所を指しながら、「どこで買いましたか。何を買いしましたか」などの質問をして、その答えを書くように促します。



には、その学習者の簡単な似顔絵や買ったお店のイラスト、買った物など、何を描いてもよいです。勿論、何も書かなくてもよいです。

◆ワークシート⑤-2 買い物について少しまとまった文を読み、買い物について作文を書く

ワークシート⑤-2はワークシート⑤-1を発展させた文です。少し複雑になっていますから、学習者の日本語力に合わせて調整してください。

まず、1. の文章を皆で読みます。皆で読んだ後、内容理解の質問をします。全部一度に読めない場合は、内容を2つに分け、最初の4文（それからの前まで）を読み、内容理解の質問をしながら、理解を深めます。後半も同じようにします。

<活動例>

ワークシート⑤-2の2. 3に進む前に、以下のような手順で進めていくこともできます。

話す ⇒ 話したことをメモをする （支援者がチェック） ⇒ 発表
⇒ クラスメートが発表したことを書く （支援者がチェック） ⇒ 発表
⇒ フィードバック

- ・ 話す ⇒ 1. で読んだものを参考に、まず、自分たちの買い物について話します。学習者が自分から1. で読んだようなことが話せない場合は、支援者は適宜質問して引き出してください。

- ・ 話したことをメモをする （支援者がチェック）

⇒ 話した後、話したことをメモします。メモしたことを支援者はチェックして間違いを修正しましょう。発表する前には必ずチェックします。学習者のためばかりではなく、発表のときに間違った文をクラスメートに聞かせないためもあります。

- ・ 発表 ⇒ クラスで発表します。メモを取るように促してもよいでしょう。メモは早

く書く必要があるため、日本語でメモが難しい学習者の場合は母語でもよいと思います。

- ・クラスメートが発表したことを書く（2. 3.）

⇒ クラスメートが2人いない場合や、2つ書くのが大変な場合は、2. は「昨日、私は・・・」と、先程メモをした自分のことを書いてもよいでしょう。支援者がミスをチェックします。

- ・発表 ⇒ 自分のことではなく、クラスメートの買い物について発表します。自分の感想などを付け加えてもよいでしょう。

- ・フィードバックする

支援者は一連の活動についてまとめたり、コメントしたりします。

支援者が「直した方がいい点、もう一步の点」を話すときは、それを改善するためには、次はどのようにしたらよいかも話しましょう。次の目標を学習者と話し合うことは大切なことです。

- ※ 注意する点だけを話してそれで終わりにしないでください。学習者の伸びたところ、頑張ったところなどよいところも見つけて褒めることも忘れないようにしましょう。

◆ワークシート⑥ かけいぼ1

家計簿の付け方を学び、付ける

- ・キャンプで育った難民の方の中には、貨幣経済や日本の貨幣、物の値段などに慣れておらず、お金を計画的に使うことがあまり上手ではない方もいます。そこで家計簿の付け方を学ぶことで、経済観念を付けてもらおうというねらいもあります。
- ・まずは、ワークシート④で学習したレシートを家計簿に付けてみます。どこに何をどのように書くのか、入ったお金（収入）、使ったお金（支出）、残りのお金をどのように書くかなど、一つひとつ支援していきます。

- ※ 家計簿を付けたことがない学習者は理解することが大変かもしれません。ゆっくり一緒に家計簿を付けてください。

<活動例>

- ・ワークシート④のレシートを家計簿に付けることができたなら、支援者が用意したシンプルなレシート、あるいは学習者が持ってきたレシートの中で複雑ではない物などを使って、家計簿に表してみます。いくつかのレシートを家計簿に付けていくことで、徐々に慣れていくでしょう。

◆ワークシート⑥ かけいぼ2

自分の買い物について家計簿を付ける

- ・かけいぼ1で家計簿の付け方を学習したら、かけいぼ2では学習者自身の買い物について

家計簿を付けます。1 か月付けてみて、使ったお金がいくらか、残っているお金がいくらかを知り、どのようにお金を使ったらよいか、考えてもらうことに役立ってます。

※ 1 か月という長い期間が大変な場合は、1 週間単位にしてもよいでしょう。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- ・ かぶはいくらですか。 _____ は いくらですか。
- ・ にんじんとたまねぎをください。 _____ と _____ をください。
- ・ たまごはどこですか。 _____ は どこですか。
(カバーページ)
- ・ スーパーで野菜を買いました。 _____ で _____ を買いました。
(ワークシート③)

ユニット 5

毎日の生活

<ねらい>

自分の一日を表現することができる。

- ・ 基本的な動詞、疑問詞を使う。
- ・ 自分の日常生活や休日の過ごし方などを表現する。
- ・ 動詞の否定形、過去形を理解して使う。

ユニット4は買い物に関連した動詞をいくつか扱っていますが、基本的な動詞は、ユニット5で学習します。

このユニットでは、日常生活や休日の過ごし方などを表現できるようにします。教材は、年配者や非識字者を含む比較的教育経験の少ない人のクラスで教えるときに、考え出したものがベースになっています。動詞も絞っており、文法説明をしない工夫をしました。

授業は口頭で進めていきます。口頭練習は、初級文型をやりとりするような練習ではなく、「いつする、何をする、どこでする」のような短い文のQAで練習します。

「いつ誰とどこで何をする」のようなフルセンテンスは最後のまとめや、書く作業で行うとよいでしょう。

文字が定着していないクラスでは、書くワークシートを使わなくても構いません。日々のクラス活動は口頭で行い、学習したことのまとめや振り返りには、短いQAをノートに書いてもらうだけで十分です。

基本動詞の学習がメインですが、否定形や過去形も勉強します。否定形は日常のQAの中で自然に表現したい場面が出てきますので、そのときに作り方を教えて、いくつかの動詞で練習してください。また過去形は、日常のQAができ現在形がある程度使えるようになってから学習してください。

カバーページの使い方

- ・ このユニットで扱う動詞を出してあります。初めにこのページのイラストで、学習者が知っている動詞があるかの確認に使えます。
- ・ 点線より上が日常の動詞、下が休日の動詞と分けてあります。
上段は本冊の「ワークシート①動詞(1)(2)」と、「ワークシート②動詞と言葉(1)(2)」に対応しています。

「勉強します」のイラストが、ワークシート①と違っていません。

下段は、ワークシート③休日の表現に対応しています。

※ ワークシート③で出てくる「友達と遊びます」のイラストはありません。

・実際の語彙は、このページの動詞をいくつかに分けて少しずつ覚えます。分け方はワークシートの流れを参考にしてください。語彙を覚えたら、このワークシートを拡大して貼り出し、指したイラストを言うなどして定着を図るのにも使えます。

※ 動詞を覚えるのに、イラストの意味は共通理解として、ジェスチャーなどで確認しておきましょう。

(参考: 『にほんご えじてん』 7. まいにちの せいかつ)

※ 気をつけること

多くの教科書では「行く、来る、帰る」を一緒に扱いますが、ここでは「来る」を扱わないことにしました。「行きます／来ます」の混乱を避けたいからです。

また、視点の違いの難しさがある「あげる、もらう、くれる」も扱いません。

「〇〇をします」の形は出さず、「〇〇します」の形で統一しています。

<活動例>

一つひとつ絵カードにして練習します。フラッシュカードとしてだけでなく、楽しく効果的に覚えられるよう、かるたサイズに小さくして、色々なゲーム方式で練習します。誰が一番多くカードが取れるかのようにすると盛り上がって覚えが早くなります。

(例)

坊主めくりのようにする (言えたらカードをもらい言えなかったら手持ちを全部出す)

カルタのようにする (全部並べ、動詞を聞いて絵札を取る)

<One More Step>

文字が読めたら文字札も作り、絵札とのマッチングや神経衰弱、文字札からジェスチャーゲームに発展などもできるでしょう。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① センターでの一日の流れに沿った練習

- ・RHQ 支援センターでの毎日の生活で、時間に沿って表現できる基本動詞をまず扱っています。そのため、ワークシートの動詞提出順は、センターで日本語学習していた人の一日の流れに沿っています。学習者の多くが早起きで朝食前に掃除や洗濯をする人が多かったです。
- ・語彙を覚えたら文字化して確認するためのワークシートで、まずは動詞だけ書きます。
- ・時間と組み合わせて「～時に～ます」も練習してみましょう。ここでの疑問詞は「何時に」です。

※ ここで扱う「勉強します」のイラストは、カバーページと違っていません。

※ 気をつけること

「～します」はたくさん紹介しますが、「します(=do)」は、まだ紹介しません。クラスでは具体的なQAをします。「何をVますか」は分かっても「何をしますか」を理解するのはまだ難しいからです。休日の表現のときに「何をしますか」でQA練習するといいいでしょう。

(解答例)

(1) おきます、そうじします、せんたくします、たべます、いきます、べんきょうします

(2) かいものします、かえります、りょうりします、しゅくだいします、はいります、ねます

※ 学習者によっては、「おふろに はいります」⇒「シャワーします(浴びます
が難しいので)」や「りょうりします」⇒「ごはんをつくります」などに変
えることもあります。

<One More Step>

「勉強します」を覚えたら「日本語を勉強します」「漢字を～」「日本の歌を～」などの練習
もしましょう。

※ ワークシート②の前に

ワークシート②③で動詞を押さえてから、ワークシート④の練習に入る、ワークシート
④の練習をしっかりして理解してからワークシート②③に書く、どちらでも構いません。
巻末にワークシート④で載せきれなかった教材例があります。

◆ワークシート②

基本の目的語と動詞の練習

- ・ワークシート①より詳しく日常を表現するため、目的語と動詞を組み合わせた練習をします。学習者のレベルに応じていろいろに使えるよう、枠内をブランクにしました。覚えた動詞のみの確認に使ってもよいし、目的語と合わせて書いてもよいです。ワークシート④の口頭練習が終わってから、文レベルの書き練習に使ってもいいし、否定形の確認に使ってもよいです。
- ・目的語と合わせて「～を～ます」を練習しましょう。
- ・ここでの疑問詞は「何を」「どこで」です。
- ・まず肯定形で練習し、否定形は後にしますが、QAをしていると、コーヒーを飲まない人

がいたり、「日本語わかりません（から）テレビを見ません」と言いたい人が出てきたりします。そういう場面になったら、そこで否定形の作り方を学習します。言いたいときが覚えどきです。

※ 一度に全部を出さないように気をつけましょう。「何時に」「なにを」「どこで」は一つひとつ丁寧に練習しましょう。「誰と」「いつ」は無理せず、次で練習しましょう。

<活動例>

はじめに、教室用語でも使う「読む、書く、聞く、話す、見る、歌う」などを優先するとよいでしょう。「洗う、磨く、剃る、浴びる」などは覚えにくく、結局未定着のままユニットが終わることも多いです。どの動詞を優先するかは適宜ご判断ください。

余力のある学習者には動詞をどんどん増やしてあげてください。知りたい語彙を聞いてくると思います。男性の「髭を剃ります」があるので、女性から「化粧します／メイクします」など聞かれます。

（解答例）

（１）かおを あらいます、はを みがきます、ひげを そります、コーヒー／おちゃを のみます、ほんを よみます、にほんご／かんじを かきますおきます、そうじします、せんたくします、たべます、いきます、べんきょうします

（２）にほんごを ききます、にほんごを はなします、テレビを みます、おながく／うたを ききます、うた／（歌のタイトル）を うたいます、シャワーをあびます

※ 「テレビを見ます」は、語彙練習はしますが、まだ日本語が分からないので実際にテレビを見る人は少ないです。PQA では「DVD を見ます」「YouTube を見ます」などとなります。必要であれば、イラストを用意してください。

<One More Step>

「何も～ません」の形も覚えましょう。

現在形ができたなら否定形の答が出るような QA もしてみましょう。

（参考： 『にほんご えじてん』 7. まいにちの せいかつ 5. たべもの 8. まち）

◆ワークシート③ 休日にすることの練習

- ・ワークシートに休日の表現とありますが、ワークシート①②以外の動詞を扱っています。
- ・休日は人によって知りたい語彙が違うので、個々に紹介してあげてください。よく聞かれるものに

「散歩／体操／ジョギングします」「何もしません／ゴロゴロします」などがあります。最近では「インターネット（を）します」も聞かれます。

- ・ここでの疑問詞は「誰と」「いつ」です。

※ センターで学習していた人たちが知りたがった、皆に必要な語彙に「お祈りします」があります。

この教材を作成したときは、タイキャンプからの難民で日曜に教会に行く学習者が多く、そのため休日の表現のところに「教会／お寺に行きます、お祈りします」を入れていました。最近ではイスラム教の学習者が「毎日お祈りします」と言いますし、仏教でもキリスト教でも、「毎日家でお祈りします」と言う学習者もいます。「お祈りします」の語彙を、休日ではなく日常の動詞のところで紹介してもよいでしょう。

※ 気をつけること

ここで「教会に行きます」と「教会でお祈りします」を混乱しないよう気をつけてください。混乱する場合は、どちらか1つに絞って練習してください。「公園に行きます」「公園であそびます」や「レストランに行きます」「レストランで食べます」も同様です。

(解答例)

きょうかいに いきます、じてんしゃに のります、ともだちと サッカーします、
ともだちと あそびます、レストランで たべます、こうえんで あそびます

<One More Step>

- ・ここで「～を～ますか」ではなく「何をしますか」でQA練習してみましょう。
- ・「友達と」のほかに「ひとりで」も覚えましょう。
- ・疑問詞と助詞の整理をしましょう。
- 「教会に行きます／教会でお祈りします」の違いをしっかりと理解しましょう。
- ・いつも、毎日、時々、～に～回など、頻度の練習もしましょう。

(参考： ユニット5 教材例① p. 101)

◆ワークシート④

文の形を視覚化して練習

- ・文法説明をせずに、助詞、目的語、動詞の理解と練習をするのに、それらを視覚的に表したものです。ワークシート上部の枠で囲っている文は、ノートにQAを書くときの例です。
- ・「～と～ます」のワークシートはありませんが、自己紹介時に「家族と」という表現が比較的使えています。「家族と」「子どもと」「友達と」はチャンクで覚えていることが多いです。ですが、わからないようでしたら、教材例② (p. 102) を参考にイラストを用意して練習してください。
- ・「～に行きます」のワークシート也没有ありません。教材例③ (p. 103) を参考にしてください。

(参考： ユニット5 教材例②、③ pp. 102-103)

<活動例>

・最初は丁寧に一つひとつイラストを指しながら答え方を示します。口頭練習は短い文の会話で行ってください。フルセンテンスは書くときにするとよいでしょう。まずは目的語と助詞と動詞を、何度も繰り返して覚えましょう。イラストを順に指し示しリードしてあげるとよいでしょう。はじめはイラストを指しながら、教師・支援者も一緒に唱和します。学習が言えるようになってきたら、教師・支援者は指すだけ、学習者だけが唱和します。最終的に学習者が自分で指しながら、あるいは指さずにスムーズに言えるのが目標です。

※ 助詞だけを強調して強く言わないよう、語彙のまとまりで言えるよう、注意してください。

・吹き出しの中の語彙イラストや追加したい語彙などは、適宜変えてお使いください。

※ ワークシート⑤⑥の前に

学習者のレベルに応じて、ワークシート⑤も⑥も、使っても使わなくても構いません。

◆ワークシート⑤ 肯定や時制の形の確認

・否定形や過去形の確認練習の活用表です。まとめや宿題に使用するなら、動詞を変えたり足したり、適宜行ってください。また、表も現在形だけ、否定形だけと、必要に応じて適宜削って使ってください。

・非識字者を含む教育経験の少ない人のクラスでは、このような活用表を書くような活動はあまりしません。絵カードを使い口頭練習をたくさん重ねます。見本①のような活用表をクラスに常時貼っていて、それを使います。その後、見本②のような、書く練習を日々の宿題に出します。

※ 宿題に出す前に、やり方の説明と練習を必ずクラスで行います。

《見本① クラスに貼る活用表》

絵カードを空欄の枠にあてて口頭練習します。通常の表では、「～ます」「～ました」の順の方が一般的ですが、時制の理解の助けになるよう、カレンダーを横に並べて視覚的に導入します。活用表も、このようなカレンダーと同じ順番にします。肯定形を赤字で、否定形を青字で色分けして使います。否定形

見本①

	きのう	きょう	あした
はい	たべました		たべます
いいえ	たべませんでした		たべません
はい	□□□□ました		□□□□ます
いいえ	□□□□ませんでした		□□□□ません

や過去形に慣れてきたら通常の表でも練習します。学習者によって理解しやすいものを工夫してください。

見本②

《見本② 宿題に出す文の例》

イラストとヒントから1文を作ります。時制は時のことばで判断し、肯否は×印の有無で判断します。日々の宿題に出すのは、1～2文にします。

※ 時制や肯否を問うことにフォーカスするので、難しい動詞や未定着のものは避けましょう。

れい		日よう日 べんきょうしません。
①		きのう
②		きょう
③		きのう
④		きょう
⑤		きのう
⑥		きょう
⑦		きょう
⑧		あした

<One More Step>

過去形をしっかりと勉強しましょう。

そして過去形でPQAして、前日や前週の生活を話してみましょう。

◆ワークシート⑥ 文字やグラフによるQAシート

- ・(1)のQAシートは、文字が定着していないクラスや、文字が読めても文章理解ができないクラスでは、教師・支援者が口頭で行います。それに対する答えを(2)円グラフに書いてもよいでしょう。
 - ・上位者は、(1)は文を読んで理解し答えを書くという練習です。宿題にしてもよいし、このユニットの最終目標の作文のアウトラインに使ってもよいでしょう。
- 上位者は(2)は省略しても構いません。あるいは、ペアワークに使ってもよいでしょう。

<One More Step>

お互いのスケジュールをインタビューしてグラフに書いてみましょう。クラスで皆のグラフを見比べて発表し話し合うのもよいでしょう。

◆ワークシート⑦ ユニットの最終タスク

- ・ユニットの終わりにまとめとして使うものです。
- このユニットの最終目標で、「私の一日」を発表するための原稿、或いは、口頭練習してきたものの文章化というねらいで、最後に作文があります。

- ・前述したように、上位者はワークシート⑥の（１）から作文につなげ、ワークシート⑦を発表原稿として使います。
 - ・下位者のクラスでは、QA では話せても、文字が定着していなかったり、作文が書けなかったり、一つひとつを文にするのはなかなか大変です。ワークシート⑦を使わずに、口頭練習時に使っていたイラストを時系列に並べたものなどがあると大いに助けになります。
- （参考： ユニット5 教材例④ p.104）

※ 教材例④の使い方

イラストを見て QA し、答えたことを単文で書きます。

しかし、発表時には読めないという問題が出てくることが多々あります。

また、文字が読めても、単音を細切れに読んだり、語彙の変な箇所区切ったりして、聞いていてわからないものになってしまいます。イラストを見ながら自分で話した方が、聞きやすくなります（聞きやすく上手に言えます）。

発表用に見本⑥のイラスト部分を見ながら、まとめて話す練習に使います。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- ・どこで お祈りしますか。

教会で お祈りします。

- ・何を 歌いますか。

歌を うたいます。

- ・誰と 歌いますか。

友達と 歌います。

- ・どこに 行きますか。

教会に 行きます。

- ・あした何をしますか。

- ・昨日何をしましたか。

どこで _____ ますか。

_____ で _____ ます。

何を _____ ますか。

_____ を _____ ます。

（ワークシート④－２）

誰と _____ ますか。

_____ と _____ ます。

（ユニット5 教材例② p.102）

どこに 行きますか。

_____ に 行きます。

（ユニット5 教材例③ p.103）

_____ 何を しますか。

_____ 何を しましたか。

（ワークシート⑤）

<表現>

- ・毎日、料理します。

- ・ときどき、買い物します。

（ユニット5 教材例① p.101）

ユニット 6

交通

<ねらい>

交通機関を利用して、目的地に移動することができる。

- ・ 乗り物の名前や、「乗ります／降ります」を覚えて使う。
- ・ 目的地までの移動経路を説明する。

- ・ このユニットのねらいは交通手段を使って目的地まで移動できること、また目的地までの移動経路を説明できるようになることです。そのために、ワークシートに沿って段階を追って学習します。まず乗り物や「乗ります／降ります」、助詞などを覚えて使えるようにし、自宅から日本語教室まで、自宅から会社まで、休日に行ったところなどの交通経路が説明できるよう練習します。
- ・ 交通経路を説明するにあたり、それほど経路が複雑でないところへ、皆で行って、その体験を言語化するという行動中心・体験学習を挟むとよいでしょう。交通経路の説明は観念的に学習するのは難しいものです。目的地に移動しながら、そのプロセスを一つずつ言語化していくという学習は学習者にとって具体的で取り組みやすい学習となります。皆が共有している体験ですから、教室に戻って復習する際も、助け合いながらできるという協働学習の良さが生かれます。交通機関を利用して自由に行きたいところへ行けるようになると、行動範囲が広がり、日本での生活が楽しめるようになるでしょう。

カバーページの使い方

- ・ カバーページはそのユニットで学習する内容、最終的にできるようになることを、イラストや写真を多く使って目で見てわかるように作られています。ですから、まずカバーページを見ながら、内容について口頭で十分に話し合います。
- ・ このユニットのカバーページはタイのメラキャンプから東京の新宿に来るまでの交通経路がイラストや写真で示されています。カバーページを見て日本にどうやって来たかを思い出してもらいました。この段階では学習者は交通経路を説明する語彙や表現を持たないことが多いので、知っている語彙や表現を使って話します。支援者が学習者にわかる日本語で適切な質問をしながら引き出しで行きます。カバーページのイラストや写真を指さしながら具体的に質問していきましょう。

支援者：皆さん、ここはどこですか。（写真を指しながら）

学習者：メラです。

支援者：メラからどこに行きましたか。（写真を指しながら）

学習者：メ・・・

支援者：ここはメソトです。メラからメソトに行きました。（→を示しながら）

学習者：メラからメソトに行きました。

支援者：これは何ですか。（イラストを指さしながら）

学習者：・・・

支援者：バスです。（学習者は覚える必要はない）

バスでメソトにいきました。（バスと、→を指しながら）

（同様に行う）

支援者：バンコクからどこに行きましたか。誰と行きましたか。何で行きましたか。

などを一つひとつ聞いていきます。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 乗り物の名前を知る

ワークシート①は上の部分7つの乗り物と下の部分4つの乗り物に分かれています。一度に学習するのではなく、上の部分を学習したら、下の部分に進みます。

・乗り物の名前を覚える

上半分7つの乗り物

- ① 上の部分7つの乗り物の名前をすぐに支援するのではなく、まずは「これは何ですか」と学習者が知っているかどうか、ヒントを出せば思い出すかどうか質問します。7つの名前をイラストを指しながら支援します。
- ② もし7つ全部知らなかったら、乗り物の名前を支援した後、支援者が乗り物の名前を言って、学習者がその乗り物を指すという活動を挟むとよいでしょう。「聞いてわかる」というのも大切なプロセスですし、名前を答えるよりは難しくないからです。次は支援者が乗り物を指して、学習者が答えます。
- ③ 文字学習を入れることで、読んでわかるだけでなく、記憶の定着にもつながります。文字学習の進んでいない学習者には、穴埋め形式から始めるのがよいでしょう。書く力に応じて、穴埋めの数は変えてもよいです。
「くるま」「ちかてつ」の清音から始め、長音を含む「ひこうき」、拗音を含む「でんしゃ」「じてんしゃ」へと進みます。

<活動例> ディクテーション

文字学習が進んでいる学習者はディクテーションを行うのもよいでしょう。カタカナの学習が進んでいない場合、とりあえずでも「バス」を「ばす」とひらがなで書くのは賛成できません。「ばす」という表記を目にすることはないからです。この場合はカタカナ語は口頭のみで行ったり、学習者ではなく支援者が書いたりします。

※7つの乗り物の多くを知っている場合は②は省略して、①から直接③へ進みます。

下半分4つの乗り物

- ① 上の部分と同じように学習しますが、名前だけではなく、パトカーや消防車、救急車などはどんな時に使うかも合わせて支援します。(めったに使うことはないとはいえ緊急の際は重要です。ユニット2「数えよう」で「110番」「119番」を取り上げています。)

- ② 文字学習も上と同様に行います。



※「しょうぼうしゃ」「きゅうしゅうしゃ」など拗長音を含む表記は特に難しいです。音を十分に聞かせ、時間をとって練習してください。

<One More Step>

・語彙を増やす

ワークシート①で出してある乗り物をすでに知っていた場合などは、『にほんごえじてん』のイラストや写真などを使って語彙を増やします。新幹線、船など学習者に身近な物や、乗る可能性のあるものから増やしていきます。

・学習者の国や地域で使う乗り物について話す

国や地域によっては、日本にはない、あるいはなじみのない乗り物があるかもしれません。そうした乗り物を出してもらうのもよいでしょう。学習者はその乗り物の日本語の名前は知りませんから、イラストを描いてもらったり、写真を見せてもらったりして、支援者が名前を紹介します。日本にない物は、学習者のことばをカタカナ表記します。

・クイズ形式で学習

乗り物のまとめとして、クイズを出し合うのも楽しい活動になります。

(例)「アメリカに行きます。何で行きますか。」 (答え：ひこうき、ふね)

「〇〇さんは毎日〇〇で会社に行きます。」 (答え：電車／地下鉄／バスなど)

※学習者がいつも使っている乗り物などもクイズに混ぜます。

「火事です。何番に電話しますか。何が来ますか。」 (答え：119番 消防車)

※クイズのレベルは学習者の日本語力に応じて変えてください。

(参考：『にほんごえじてん』 8. まち)

◆ワークシート②

「乗ります／降ります」を使って経路を説明する

何か低い台や椅子を用意します。適当な物がなければ、段ボール紙でも、床に紙を敷いても構いません。スペースがない場合はイラストと人形などで行ってもよいですが、要は体を使って実際に動く活動を行うことが大切です。人形で行う場合でも必ず人形を動かしながらことばを言ってください。ワークシート②のイラストも活用してください。

※「乗ります／降ります」は助詞が難しいので、助詞にも注意しながら学習していきます。

・「のります おります」

① 「乗ります」「降ります」のリピート、口慣らし練習をします。

② 低い台などに乗りながら「乗ります」おりながら「降ります」と言います。学習者にも同様にやってもらいます。

・「バスにのります バスをおります」

① 低い台などに「バス」のイラストを描いた紙（文字でもバスのイラストを描いた紙でもいいのですが、この場合は「踏む」といった動作になりますから、足を少し持ち上げるなど、「乗ります」と発話する動作にふさわしい演技力を発揮してください。

② バス→バスに→バスにのります

3つの段階に分けて、ゆっくり実演してみせます。「バスに」のところで一旦止めます。

「バスに」の助詞「に」の前に不自然でない程度にポーズを置いたり、不自然でない程度に強調したりして、注意が向くようにします。板書するのもよいでしょう。

学習者にも同様に発話しながら、動作をしてもらいます。「バスに乗ります」と滑らかに言いながら動作ができるまで練習します。

「バスを降ります」も同様にします。できたら、「バスに乗ります」「バスを降ります」と2つ続けて、滑らかに言いながら2つの動作ができるまで練習します。

・「でんしゃにのります」「でんしゃをおります」

この表現の復習です。また、ほかの乗り物に変えて練習することによって、バスだけでなく、電車も飛行機も地下鉄も同じだということを理解することができます。



・のりかえます

同様に行いますが、今度は台を2つ用意します。実際に移動しながら発話します。

・まとめ・復習

(ア) たかだのばば **から** うえの **まで** でんしゃ **で** いきます

(イ) たかだのばば **で** でんしゃ **に** のります

(ウ) うえの **で** でんしゃ **を** おります

イラストがあったほうがわかりやすいです。シンプルな山手線のイラストを描いて行います。高田馬場や上野を指し示しながら行います。

※ワークシート⑤のイラストを使う場合は、他の情報が多く入っているので消すなどして工夫してください。

(ア) 高田馬場から上野まで電車でいきます

・一気に練習するのが難しい場合、後ろから始めて段々長くしていきます。

電車でいきます→上野まで電車でいきます→高田馬場から上野まで電車でいきます。

・QA で確認しながら導きます。

「何で行きますか。」

☞ 「電車でいきます。」

「どこまで行きますか。」

☞ 「上野まで行きます。」

「どこからどこまで行きますか。」

☞ 「高田馬場から上野まで行きます。」

「どこからどこまで何で行きますか。」

☞ 「高田馬場から上野まで電車でいきます」

(イ) 高田馬場で電車に乗ります。

(ウ) 上野で電車を降ります。

電車に見立てた台の上に「たかだのばば」「うえの」と書いて、実際に乗ったり降りたり
の動作をしながら発話します。ホワイトボードに電車のイラストを描き、指人形を使っ
て行ってもよいです。学習者にも同様に動作をしながら発話してもらいます。

◆ワークシート③

実際に行った場所までの比較的簡単な経路を説明する

ワークシート②まで終わったら、経路が複雑でないところへ実際に行く体験学習を行います。実際に電車や地下鉄を乗り降りしながら、「〇〇駅で電車に乗ります、〇〇駅で乗り換えます、〇〇駅で電車を降ります」など既習の語彙や表現を使ってみます。

☆はなしましょう

帰ってきたら、写真やイラスト、路線図などを手掛かりに、家から行ってきたところまでの経路を言ってみます。最初からすらすら言えなくても構いません。次の「こたえましょう」の質問に順に答えていくことで経路説明ができるようになっていきます。

☆こたえましょう

「いつどこに、いきましたか。なんで いきましたか。どこで のりましたか。

どこで のりかえましたか。どこで おりましたか。」の5つの質問に答えていきます。

答えたら、書いてみましょう。

<One More Step>

- ・学習者の自宅からセンター、会社など、よく行くところや、実際に行ったところをとりあげ、ワークシート③と同様、自由に話します。写真や地図、路線図なども活用するとよいでしょう。なかなか話せない場合は、ワークシート③「☆こたえましょう」のように、支援者が5つ程度の質問をして引き出します。
- ・話した後は書いてみましょう。この段階では5つ程度の質問に答える形で書きます。

- ・自宅からセンターまでの経路を説明する

自由に話す場合、なんとなくは話せても、きちんとした形である程度正確に話すのは大変難しいです。ワークシートに記入するなどして整理してからもう一度話すと、より詳しく正確に話せるようになります。穴埋め形式にするなど日本語の力によって、工夫してください。まず、支援者が見本となる型を示します。教材例① (pp. 105-106) も参考にしてください。経路が説明できるようになったらクラスで発表しあうのもよいでしょう。

(参考： ユニット6 教材例① p. 105-106)

◆ワークシート④

自国から日本までの大まかな交通経路を説明する

☆はなしましょう

写真やイラストなどを手掛かりに、国から日本（現在の住所）までどうやって来たのかを自由に話します。

☆かきましょう

ワークシート③では一つひとつの質問に対する答えを書きましたが、ワークシート④では自由に書いてみましょう。

◆ワークシート⑤

住んでいる地域の路線図を見ながら交通経路を説明する

- ・山手線路線図と有名な駅（場所）のイラストです。イラストを見ながら知っている駅（場所）、何があるか、行ったことがあるか、いつ、誰と何で、どうやって行ったか、どうだったかなどを話します。うまく話せない学習者には、質問をして引き出します。
- ・学習者が東京に住んでいる場合はワークシート⑤が使えます。学習者が住んでいる場所に合せて、その町の路線図（ルートマップ）や地図・名所案内などを用意し、それらを見ながら上のような話をします。

◆ワークシート⑥

交通経路や出かけた場所に関する質問に答える

10 の質問に答えていくことで、自然な流れで次のようなことが話せるようになります。

週末に、どこに、何で、誰と、行ったのか、何時に出て、何時に着いたか、そこに何があったか、そこで何を見たか、何時に帰ったか、一番面白かったのは何かなど。

- ・口頭で答えた後は、書いてみましょう。10 の質問に対する 10 の答えを書きます。
- ・「こんどは〇〇さんと□□にいきたいです。」

最後に、誰とどこに行きたいかを話します。日本語力が高い学習者は発展学習旅行計画を立てる活動にもつなげます。

<One More Step>

- ・まとまった話をする／まとまった内容で作文を書く

10 の質問に対する 10 の答えをつなげていくと、週末に行ったところについて、感想を加えたまとまった話ができるようになっていきます。

つなげて書くと、まとまった内容の文を書くことができます。

- ・新しい表現を増やす

学習者の日本語力に応じて次のような表現をプラスしてもよいでしょう。

「高田馬場で、東西線を降りて、西武新宿線に乗ります。」

「高田馬場で、(山手線から) 東西線に乗り換えます。」



- ・ワークシート⑥まで終わったら、ユニット6のカバーページに戻り、カバーページを見ながら国から現在の住所までの交通経路を話します。ワークシート④で一度行っていますから、ここでは前より上手に話せるようになっていきます。ワークシート⑥のように、何時に、誰と、何があったか、何を見たか、何が面白かったかなどの情報も加えて前よりも詳しく話します。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- ・高田馬場から上野まで電車で行きます。

_____から _____まで _____で 行きます。

- ・高田馬場で、電車に乗ります。 _____で _____に 乗ります。

- ・高田馬場で、電車を降ります。 _____で _____を 降ります。

- ・高田馬場で、乗り換えます。 _____で 乗り換えます。

(ワークシート②)

ユニット 7

町へ出かけよう

<ねらい>

クラスの皆で町を探検し、その結果を協働して発表することができる。

- ・町にある施設や建物について、名称と何をするところかがわかる。
- ・簡単な地図を使って位置・場所や方向を確認する。
- ・目的地までの道順を尋ねたり、教えたりする。

『はじめましてにほん』では、実体験の中で、学習者たちが協働して自ら学んでいく力を育むことを大切にしています。このユニットでは、クラスの皆が一緒に近隣の町を探検し、そこで「発見」したことをまとめ、クラス外の人 앞에서協力して発表するという一連の作業を通し、これらの力をつけ、自信につなげていくことを目指しています。

カバーページの使い方

町の絵を見て QA をしながらこのユニットで学習することについて学習者をいざないます。「絵の中に何があるか、知っている建物や施設があるか、行ったことがあるか」など、学習者の理解度の様子を見ながら尋ねましょう。やりとりの中で、学習者の語彙力や構文力をチェックし、その上で学習者のレベルに合わせ、このユニットを進めていきます。

絵は大きく拡大し、ホワイトボードなどに貼るとわかりやすいでしょう。

※ このユニットは、『にほんご えじてん』 8. まち に対応しています。カバーページも『にほんご えじてん』 8. まち の扉ページを縦に凝縮したものです。拡大などして使うには、『にほんご えじてん』の絵の方がゆったりしているので、比べてみて使いやすい方を使ってください。

※ このユニットでは場所・位置を表す表現をよく使います。ユニット 3「何がある？誰がいる？」を先に学習しておくとしスムーズにこのユニットに入れるでしょう。

(参考： 『にほんご えじてん』 8. まち)

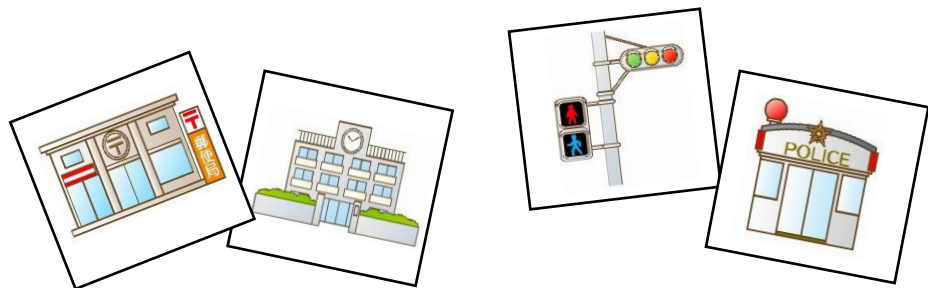
ワークシートの使い方

◆ワークシート①

町にある建物や施設

カバーページにある建物・施設の中から、覚えてほしい重要な物をピックアップしました。それぞれの名称とそこで何をすることがわかるようにしましょう。

- ・建物・施設の名前を確認しましょう。ワークシート①やカバーページにある建物や施設の絵を1枚ずつの小さい絵カードにすると扱いやすく、覚えるのに便利です。その際、裏にマグネットをつけておけばホワイトボードに貼っても使えます。



- ・名前がしっかり言えるようになったら、各建物・施設で、何をするか、いつ行くか、今住んでいる町にあるか、などについて、QAをしながら理解を図りましょう。
- ・最後に、絵の下の枠の中に名前を書いてもらいます。また、その下の余白には何をしたらいいかも書いてもらいましょう。はじめから書く作業をしてもらおうと、文字学習が中心になってしまいがちなので、気をつけましょう。
- ・学習した建物・施設をカバーページで再度、確認します。難しい人には「～はどこですか」と聞いて、「ここです」と指をさしてもらうだけでもよいです。学習者同士でも聞き合いましょう。

<One More Step>

- ・各施設でどんなことをするかなど、ひとつずつ詳しく取り上げます。

(例)

「郵便局では何ができますか。」「何を買うことができますか。」等

(参考：『にほんご えじてん』 8. まち ※ 郵便局に関連する語彙・表現)

◆ワークシート②

道順を尋ねる／教える

道順の表現を覚え、目的地までの道順を尋ねたり、教えたりすることができるようにしましょう。

- ・ワークシート②の地図上で場所・位置を聞きます。

「～の隣／前／後ろ／近く／隣に何がありますか」「～はどこにありますか」など、1．～3．の質問をモデルにして質問しましょう。

ワークシート①の地図も、拡大して前に貼り、皆で見るとわかりやすいですし、オリジナルの地図を作っても親しみが湧くでしょう。

また、ホワイトボードに道路だけの簡単な地図を描き、そこにワークシート1で紹介した建物・施設の絵カード（マグネット付き）を貼れば、簡便に地図ができます。

- ・地図上で、道順の表現を学びます。

「まっすぐ行きます」「（～を）右／左に曲がります」

教室の中で実際に動いてもらってもよいでしょう。場所がない場合は模型などを使うこともできます。

- ・慣れてきたら、少し難しい語彙も導入し、語彙を組み合わせて指示を出します。

「～つ目」「角」「奥」「手前」「向こう」「～を渡ります」

- ・語彙・表現が定着したら、ワークシート2の地図、カバーページの地図、絵カード、模型などを使って、3．のように質問をします。

- ・目的地までどうやって行くか説明してもらいます。その際、前後左右を間違えないよう地図上にマグネットなどを使って自分のいる場所を示してください。

<One More Step>

- ・最寄駅から自宅までの簡単な地図を描いてもらい、それを見ながら、自宅までの道順を説明してもらいます。その際、ありそうなシチュエーションを用意しましょう。

例：招いた友人が最寄り駅から行き方を聞いてきたので、自宅までの経路を説明する。地図を見せ、指でさし示しながら行いましょう。

- ・道の尋ね方を練習します。

導入表現を練習します。

（例）

「すみません。～へ行きたいんですが…どうやって行きますか。（教えていただけますか）」

学習者にとって、言えるようになると便利なシチュエーションを用意しましょう。

- ・町の中の交通標識など、サインを理解する練習をしましょう。

（参考： 『にほんご えじてん』 8．まち）

※ 標識・サインは読める必要はありません。意味を理解するようにしてください。

◆ワークシート③

町探検で「発見」

ここでは実際に町を探検しましょう。町探検は、有名な所に行くのが目的ではありません。

そして探検の主人公は学習者です。支援者は、学習者が町探検の過程で珍しいこと、面白いことを自分で「発見」できるように、注意を喚起したりヒントを与えたりしましょう。町探検は、これまで教室で学んだことを、実際の場面の中で体得するよいチャンスです。

同時に、町を歩いていると、支援者のほうが学習者から教わることも多いはずです。道端の雑草と思っていた草は、学習者の母国では食用にされているかもしれません。レストランの前でハラルの料理メニューについて教えてもらう機会があるかもしれません。学習者も支援者も、五感をすべて開いて思わぬことをどれだけ見つけられるか。それが町探検の醍醐味です。

《町探検の前に》

- ・まず、だいたい計画をクラスで考え、地図上で道順を見ます。クラスの人全員の関心のあるコースを選びましょう。体力も考慮しましょう。

《町探検のときに》

- ・筆記用具は各自持参しましょう。
- ・生活漢字を読んでみましょう。

(例)

看板、チラシ、メニューなど

- ・これまで学習した交通ルールや標識などを実際に確認しながら歩きましょう。
- ・学習者が町の人と日本語で話す機会を作るように心がけましょう。

(例)

お店の人などや話しかけやすそうな通行人に道を聞く。

公園や小さな博物区間など施設で、案内の人などがいたら、質問をしてもらう。

- ・支援者は振り返りや発表のときのために多めに写真をとっておきましょう。その際、記念写真的なものにならないよう、学習者が何かしているところを撮るとよいです。また、学習者が面白いと思ったこと、ビックリしたもの、興味深いものも撮っておきましょう。

《町探検の後で》

- ・町探検から帰ったら、何を発見したか皆で話し合ひましょう。1. 2なども使って振り返ってください。（1. は例です。各教室の状況にあわせて作り直してください。）
- ・行ったところの地図を描いてみましょう。ワークシート3は例としてA4サイズにしましたが、クラスの皆で協力して、大きな模造紙などに絵地図を描くと、それを元に皆で発表ができます。写真や絵、拾った落ち葉や花なども貼って、楽しい地図に仕上げましょう。

（下の絵地図はセンターのクラスで作成したものです）



<One More Step>

- ・目的地だけ決め、そこまで各自が道を聞きながら独力で行きます。心配な場合は、ペアで行ってもよいでしょう。

◆ワークシート④ 協働で発表

- ・ワークシート③で話し合ったことや描いた地図をもとにクラスで協働して発表します。センターを出発してから戻るまでの途中の様子や主だった場所について、歩いた順に、学習者たちで話し合っ、担当する場所を決めます。経路の順番に話をしなくても、それぞれが歩いた中で印象に残った場所について話すという形も考えられるでしょう。
- ・話す部分が決まったら、自分の担当部分の原稿を考えます。原稿を書くのが難しい学習者には、写真などを見せてやりとりをしながら話したことを一緒に文章化しましょう。
- ・文章を書き終えたら、発表の準備をします。わかりやすい発表のためには、どんなことに注意すればよいか、皆で話し合い、共有しましょう。
- ・発表のときに必要な表現が使えるように練習しましょう（大切な文のかたちや表現参

照)。最終的に、クラス外の人に対して、学習者皆で協働して、町探検についてひとつの発表をすることが大切です。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

・バス停はどこにありますか。

_____は どこに ありますか。

公園の前にあります。

_____に あります。

(ワークシート①、②)

・銀行で金をおろします。

_____で _____ます。

(ワークシート①)

<表現>

・駅にどうやって行きますか。

この道をまっすぐ行きます／行ってください。

次の角を右／左に曲がります／曲がってください。

(ワークシート②)

・今から () について 発表を 始めます。

初めに () について 話します。

次に () について 話します。

最後に () について 話します。

これで私(たち)の話を終わります。

何かご質問はありますか。

(ワークシート④)

ユニット 8

仕事と職場 1 挨拶・連絡

<ねらい>

職場で基本的な挨拶や遅刻・欠勤の連絡がスムーズに行うことができる。

- ・ 職場で基本的な挨拶をスムーズにタイミングよく行う。
- ・ 最低限の挨拶に添えて、簡単な会話を交わす。
- ・ 欠勤・遅刻の際に簡単な理由もつけて、必要な連絡をする。
- ・ 電話使用の際の定型的な表現を理解し、連絡の際使う。

毎日周囲の人と気持ちよく挨拶を交わすことは職場でのコミュニケーションの第一歩です。また、仕事の基本「報・連・相」にあるように、何か問題があったときにすぐ連絡できるようにしておくことも大切です。このユニットでは十分な日本語力がなくても良好な人間関係を築き、信頼を得られるように基本的な挨拶表現と遅刻・欠勤の際の連絡の表現を学びます。

カバーページの使い方

カバーページには職場で交わされるごく基本的な挨拶表現をイラストとともに紹介しています。まず、ウォーミングアップとして、学習者が職場でほかの人たちとどのような挨拶をしているかを話題にして話してみましょう。挨拶は職場によって特有の表現もあります。学習者が日ごろ耳にしているけれど、意味がはっきりわからない挨拶などがあったら、聞いてみましょう。

- ・ イラストを見ながら一つずつ何と言っているか確認していきます。学習者にイラスト場面がわかりにくいようでしたら、簡単に場面説明をしてください。

「おはようございます」 ← 朝、職場の人に会いました。何と言いますか。

「しつれいします」 ← マネージャーの部屋に入ります。入るとき何と言いますか。

「すみません、いま、ちょっといいですか？」

← 仕事でわからないことがあります。職場の人に聞きたいです。

はじめに何と言って、声をかけますか。

「すみません」

← 上記の尋ねるときの口切のセリフではなく、ここはミスしたときの謝り表現としての使い方です。

「おさきにしつれいします」

← 午後6時です。あなたの仕事は終わって、家に帰ります。
会社の人はまだ仕事をしています。帰るとき、会社の人に何
と言いますか。

「おつかれさま」 ← 6時です。あなたはまだ仕事をしています。職場の人が「お
先に～」と帰りの挨拶をしました。あなたは何と言いますか。

※ 吹き出しは例です。学習者の職場・地域で適切な表現を選んで練習してください。

※ 挨拶は一言であってもタイミングよく発話することが必要です。基本的な挨拶がきち
んとできると職場で与える印象がよくなります。挨拶表現の発音が難しかったり、ス
ムーズに出なかったりするものは取り上げて口慣らしの練習をしましょう。カバーペ
ージの挨拶場面を一つずつカードにしておくとし練習のとき便利です。場面のイラスト
カードを使って発話練習をし、滑らかに言えるようになったら、実際の場面を想定し
て動作を付けて行います。タイミングよく自信をもって自然に挨拶ができるように何
度も練習してください。

※ 基本的な挨拶は職場に限らず日常的にいろいろな場面で使われます。何か用があつて、
人に声をかける切り出しのことばとして「すみません」は便利です。また聞きたいこ
と、頼みたいことがある場合「ちょっといいですか」と一言添えられると、相手への
配慮を感じてもらうことができます。必要に応じて『にほんご えじてん』のいろい
ろな挨拶のイラストも加えてカードを作り、毎回繰り返し練習するとよいでしょう。

(参考： 『にほんご えじてん』 1. きほんのことば 12. しごと)

※ 「しつれいします」などは日本語に慣れていない段階では発音が難しく言いにくい学
習者もいます。そんなときは、言いやすくして自信をもってできる挨拶と一緒に考えま
しょう。「帰ります。さようなら」と言えれば、もじもじしながら、黙って帰ってし
まうよりはるかによいでしょう。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 挨拶

定型的な挨拶に一言添えて、コミュニケーションを深める

・ 1～4の場面練習

定型的な挨拶がはつきり、タイミングよく言えるようになったら、もう一言ことばを足
してコミュニケーションを深めていく練習をします。一言添えることで、印象はずいぶ

ん違ってきて、職場の人も話しかけやすくなるでしょう。

1～4の練習ではブランクの吹き出しに入れる例が書いてあります。遅刻したときや、休んだ翌日の挨拶もその理由を説明できれば、相手によく事情を理解してもらうことができます。

遅刻の理由は「事故で電車が動かなかった」ことを例にしていますが、バスや自転車で通勤している学習者の場合は別の起こりうる状況の説明の仕方を考えて練習してみましょう。

<One More Step>

- ・朝会ったときなど「おはようございます」だけでなく、「暑いですね／寒いですね／昨日の晩、雨がたくさん降りましたね／桜がきれいですね／昨日の地震は大きかったですね、びっくりしました」など、時期的な話題も盛り込んで挨拶できると話が弾みます。学習者のわかる範囲の日本語でどんなことが言えるか学習者と一緒に考えてみましょう。

・ワークシート①-5の場面練習

職場の同僚と自分のことや休みの日について 話題を広げていけるとコミュニケーションが深まるだけでなく、日本語力もアップします。どんな話題で話せるか学習者の趣味や休日の過ごし方などを話してもらい、内容をわかりやすく伝えるのに必要なことばを学んで、話せる引き出しを増やしていくとよいでしょう。センターでは1日の学習のはじめに学習者が順番にごく短い文で自分の生活に起こったことを話し、それについてクラスメートが一つずつ質問をするという活動を初期から取り入れています。慣れないうちはなかなかスムーズに発話できませんが、回数を重ねていくと、学習者もコミュニケーションを楽しんで活発なやりとりができるようになります。

<Information>

日本の職場では病気ややむを得ない事情で休んだ場合でも「昨日はすみませんでした。」と迷惑をかけたことを詫びることもあります。休んだ事情を説明するだけでなく、そのような切り出し方もあることを理解しておくことが日本の職場文化を理解する助けになるかもしれません。

◆ワークシート②-1 連絡 電話（1） 電話をかける・出る・終える際の基本的表現を学ぶ

ここでは当日に遅刻、欠勤を報告する際は電話連絡になるという想定で紹介してあります。電話をかける、電話がかかってくる、電話を切る場面の定型表現をまとめて紹介してありますが、練習はそれぞれの状況に合わせて開始から終了まで通して練習します。

※ 空欄に学習者の名前、仕事をしている会社名を入れて練習します。

電話をかける状況を

- ① 会社の固定電話にかける場合
- ② 相手の携帯電話にかける場合
- ③ 相手の携帯電話にかけて、相手が話せない状況にある場合
- ④ 自分の携帯電話に電話がかかってきたが、今話せない状況にある場合

の4通りにわけて、それぞれ始めから切るまでの流れで基本的な応答の練習をします。

※ 電話の応答のやりとりに入る前に

まず、電話のやりとりの中で伝える用件の内容を確認します。ワークシート②-1 連絡・電話(2)「●用件を伝える」で学習者に合った事情の説明の仕方を学習しますが、はじめの練習のポイントはあくまで電話の応対の基本表現を学ぶことにあります。ここでの用件の内容は学習者が苦勞なく言える程度のごく簡単なものにして練習してください。

① 会社の固定電話に「電話をする」場合の練習

- ・相手が出たときの名乗り方、話したい相手と呼び出してもらった表現を練習します。次に話し終わって切る際の挨拶「では失礼します。」を滑らかに言えるまで練習します。
- ・ここまでの練習が十分できたら、会社の固定電話にかけて、連絡する相手（マネージャーや学習者の担当者など）を呼び出してもらい、欠勤の旨を伝えて、電話を切るまでの流れを通して練習しましょう。それがスムーズにできるようになったら、遅刻の際の連絡もスムーズにできるよう練習してください。

② 次に直接相手の携帯電話にかけて、名前を名乗り、電話で話してよいかどうか尋ねる表現を練習します。スムーズに言えるようになったら、相手（支援者）の「どうぞ」の返事を聞いて、用件を言い、電話を切るまでを通して練習します。

③ 最後に、相手の携帯電話にかけて、相手が話せない状況にいと伝えられた際の対応を練習します。支援者は「今電車の中なんで・・・、今会議中・・・」など電話に対応できない旨を簡潔に伝えてください。ここで学習者は完全に言われたことが全部わからなくても、様子で電話できない状況であることを理解し、「あとで、こちらから電話します。」と言って切る練習をします。支援者は不都合と判断できる言い淀みや雰囲気を出して練習の相手になってください。

④ 最後に学習者の携帯電話に電話がかかってきたが、不都合な状況にある設定を説明し、後で電話を返す際の表現を練習します（②-1（1）●でんわにでる一の練習部分）。滑

らかに言えるようになったら、その後で自分から先方へ電話をする練習に進み、電話表現のまとめ練習とします。

- ※ 電話のマナーを理解して、はっきり伝わるように話す練習をしましょう。かなり上級になっても電話は緊張するという学習者が多いです。勇気を出してかけたものの、途中でわからなくなって電話はこりこりという経験をするとう苦手意識がついてしまいます。想定外のことが起こったとき（間違った相手にかかるなど）の対応を練習しておくことも必要です。支援者はあえて学習者が想定した会社名や相手ではない名前でも対応したり、通話状況がよくない演でなどして、その際の対応も紹介してください。パニックになって黙って切るのではなく、とにかく手に負えなくなったら、「すみません、失礼しました／間違えました」などと言って電話を切ることができるようにしておきましょう。

<One More Step>

- ・電話会話の流れに慣れてスムーズに対応できるようになったら、伝言を頼む表現の練習をします。

（会話例）

支援者：〇〇（学習者の会社名など）でございます。

学習者：××ですが、田中さんをお願いします。

支援者：申し訳ありません、田中は今外出しております。

学習者：それでは伝言をおねがいします。_____の（所属など）××です。

（用件・・・・・・）よろしくお願いします。

支援者：わかりました。（用件を繰り返す）

◆ワークシート②ー１ 連絡 電話（２）

欠勤・遅刻の際の簡単な事情説明の練習

- ・電話の基本的なやりとりを練習するときは、例にあげた程度の簡単な理由を使って練習すると負担が少ないと思いますが、電話の基本的表現の練習がスムーズに言えるようになったら、学習者のこれまでの欠勤・遅刻などの経験を聞いてみましょう。学習者の状況に応じて、どのような事情説明ができたなら実際のかを考えていきましょう。バス通勤の渋滞による遅れ、子どもの突発的な体調不良などいろいろなケースを考え、それを説明するのに必要な表現を学んで使えるようにしておくとういでしょう。

◆ワークシート②ー２ 連絡 電話

欠勤・遅刻の際の連絡の会話例

- ・欠勤、遅刻の連絡のサンプル会話です。読み練習の後会社名を実際のものにして支援者を

相手に、学習者が複数の場合は役割を変えながらロールプレイ（役割練習）をしてみましょう。文字学習が進んでいない場合は支援者が会話例を読んで聞かせ、内容の確認をする練習に使います。

- ・相手の返答がわからない場合の聞き返しなどの練習も入れて変化をつけて練習しましょう。会話が通じているか確認する表現「もしもし」や聞き取れないことを伝える「すみません、よく聞こえません」「もう一度お願いします」などを入れながら練習すると臨場感が出るでしょう。

※ 電話は相手の顔が見えない状況で話すので、難易度が高くなります。不安を持たずに電話で話すことに慣れるように練習でも実際の携帯やおもちゃの電話などを使い、お互いの表情が見えないように後ろ向きになって、声だけでやりとりする練習をしてみましょう。

◆ワークシート③ 職場での挨拶まとめ

挨拶表現のまとめです。文字学習に時間が使える場合は枠の中に挨拶表現を書いてみて、表記の確認をします。時間的に教室内での文字学習が難しい場合は宿題にして次回表記を確認することもできます。文字学習が進んでいない場合は支援者が状況を言って質問するか、このユニットのカバーページに戻って、イラストを見ながら各場面の挨拶を復習しましょう。

- ・電話の基本的表現のまとめ

ワークシート③では挨拶表現のまとめを文字学習用に載せてありますが、電話の基本的表現についても同様に確認できるように教材例①（p. 109）を追加してあります。挨拶表現のまとめと同様に文字学習もしくは口頭での QA に使ってください。

（参考： ユニット 8 教材例① p. 109）

<One More Step>

挨拶表現について

- ・基本的な挨拶のことばは決まり文句的表現として紹介されることが多いですが、短いことばの中にそれぞれの国の文化が感じられて面白いものです。ワークシート①の<Information>でも触れたように病気ややむを得ない事情で休んだ後でも「昨日はすみませんでした」と迷惑をかけたことを詫げるなど、‘自分の国ではあり得ない’と思える学習者もいるでしょう。会った途端「ご飯食べた？」というのが定番の挨拶という国もあります。日本語を学びながら、同時に母語の挨拶を見直してみても新しい気づきがあったりもします。そんなことを話し合ってみるのも面白い発見となるでしょう。

- ・ 仕事関係のコミュニケーションについて、困っていることや期待されていることなどがあれば、自分の伝えたいことをどのような日本語で表現できるかを考えてみましょう。
- ・ 昼休みや始業前、終業後に職場の人と日本語でどんな交流をしているか、どんな交流ができることを望んでいるかを話題にし、参考になる表現などを練習してみましょう。

欠勤・遅刻などの用件について

- ・ 電車・バスなどの遅延、運行停止などに関連する表現を知り、構内アナウンスなどを理解する参考にしましょう。通勤途中の起こり得る突発的な事故などを自分が理解できることばで説明できるように練習してみましょう。

大切な文のかたちや表現

<表現>

- ・ おはようございます。
- ・ 失礼します。
- ・ すみません。
- ・ お先に失礼します。
- ・ お疲れさま（です）
- ・ すみません、今、ちょっといいですか。

（カバーページ、ワークシート③）

電話の基本表現

- ・ もしもし、（自分の名前）ですが、（話したい相手）をお願いします。

〔呼び出しを頼む〕

もしもし、（自分の名前）ですが、今、いいですか。〔電話をする〕

わかりました。お願いします。

〔相手がかけなおすと言った場合〕

はい、（自分の名前）です。

〔電話に出た際の名乗り〕

すみません、今（電車の中）です。後で、こちらから電話します。

〔電話をもらったが、今話せない事情があるとき〕

では 失礼します。

〔電話を切る〕

（ワークシート②－１）

欠席・遅刻の際の表現

- ・ 今日、熱があります。すみませんが、休みます。
- ・ 事故で電車が動きません。少し遅れます。
- ・ 遅くなってすみません。
- ・ 今日はお休みしたいので、よろしく願いいたします。

（ワークシート②－１、②－２）

ユニット 9

健康と病気

<ねらい>

病気やけがのとき、医療機関で治療を受けることができる。

- ・体の部位名を知り、病状を伝える。
- ・診療科がわかり、診察時に医師とやりとりする。
- ・薬の種類、および摂取の表現がわかる。

日本に来て間もない外国人にとって、日本の病院に行くことは敷居が高いと予想されます。このユニットではまず自分の体の基本的な情報から、病状や体調の言い方、どんな診療科に行けばいいのか、医師とのやりとり、薬を手に入れた後の服用の表現まで学習します。

カバーページの使い方

左上・・・何をしているところか、測ったことがあるか聞いてみましょう。

(学習者の身長など聞いてみてもよいでしょう。)

右上・・・ひとつずつ、どんな症状か見ていきましょう。「いたい」などはここで導入できます。学習者に、今の体調はどうか聞いてみるのもよいでしょう。

左下・・・「くすり」の語彙を導入し、今現在、使用しているものがあるか聞いてみましょう。

右下・・・「びょういん」「おいしゃさん (いしゃ)」「かんごしさん (かんごし)」の語彙を導入します。病院に行ったことがあるか、誰と行ったかなど話してもよいでしょう。

※ まだよく話せないかもしれませんが、そんなときは、動作や簡単な動詞を使って、コミュニケーションをとってみてください。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① | | | | |----|----|----| | 身長 | 体重 | 血圧 | |----|----|----|

絵を見て、「しんちょう」「たいじゅう」「けつあつ」などの語彙を導入して、書き入れてもらいます。その後で、「身長を測ります」「体重を量ります」など動詞も一緒に覚えても

らうとよいでしょう。実際に計測を行ってみてください。それから結果を記入してもらいます。

- ・「背が高い／低い」「体重が重い／軽い」「血圧が高い／低い」「足が大きい／小さい」などの言い方もここで学習しておく、会話が広がります。
- ・生まれたばかりの赤ちゃんや、力士の身長や体重を予測してもらったり、実際に紹介するのも面白いかもしれません。子どもがいる人には、子どもが産まれたときの体重を聞いてみるのもよいでしょう。

◆ワークシート② 体の部位

ワークシート①より先に体の部位を導入しておいてもよいでしょう。

<活動例>

歌やゲームにして覚えるやり方もあります。

- ・（♪「ロンドン橋落ちた」のメロディで）

「あたま かた おなか こし おなか こし おなか こし
あたま かた おなか こし かお て あし」

- ・学習者全員に立ってもらい、支援者のいう体の部位を聞いて、自分の体の部位を指してもらいます。間違えた人から座って抜け、最後まで残った人が勝ちです。または、支援者の指す体の部位を全員で言い、間違えた人は座るというやり方もできます。

（参考： 『にほんご えじてん』 10. けんこう）

<One More Step>

さらに詳細な部位、主な内臓の語彙を学習しましょう。

（参考： 『にほんご えじてん』 10. けんこう ※ 身体語彙）

◆ワークシート③－1 病状

イラストの絵を利用して絵カードを作成し、それを見て「～が いたいです」「～が かゆいです」の言い方を 繰り返し発話して覚えてもらいます。学習後にワークシートに記入します。

<活動例>

学習者に体の部位をいろいろに変えて、「～が痛いです」の形で言ってもらいます。また、支援者がどこかが痛いという動作を見せて、発話を促します。

◆ワークシート③－２ 病状

イラストの絵を利用して絵カードを作成し、いろいろな表現を繰り返し口頭練習した後、ワークシートに記入します。

<活動例>

- ・支援者が症状を言って、動作をしてもらう、あるいは支援者が動作をして学習者に症状を言ってもらうなどして練習します。

※ 簡単なやりとりをロールプレイ（役割練習）で行います。

「どうしましたか」「おなかが痛いです」「じゃあ、病院に行きましょう／薬をあげましょう」など。

（参考： 『にほんご えじてん』 10. けんこう）

<One More Step>

さらに病状の表現を増やしましょう。

（参考： 『にほんご えじてん』 10. けんこう）

◆ワークシート④－１、２ 診療科

診療科の漢字は読めるのが望ましいですが、漢字を見て意味がわかるだけでも役立ちます。

<活動例>

- ・『にほんご えじてん』の10-11, 12のイラストを見て、診療科名を言ってもらいます。
- ・症状の絵カードと、診療科のイラストまたは医院の写真（診療科がわかるもの）をマッチングさせます。
- ・町なかの医院の写真（診療科が出ているところ）を何枚か撮って見せ、何の医院か見分けてもらいます。
- ・自分や身の回りの人がかかっている、またはかかったことのある医院、クリニックについて、診療科や医師の性別、かかってどうだったかなど情報を皆で共有します。

（参考： 『にほんご えじてん』 10. けんこう）

<One More Step>

- ・問診票の基本的な質問に対する答えの書き方を練習します。

※ 『にほんご えじてん』10-15にも小さく載せています。

（参考： ユニット9 教材例① p.110）

- ・近所の自分がかかっている、またはかかったことのある医院、クリニックについて、診

療科や医師の性別、かかってどうだったかなど情報を皆で共有します。

◆ワークシート⑤ 診察のやりとり

まず支援者が医者になり、患者の会話部分は学習者から引き出し、ある程度形を整えてから口頭練習に入るとよいでしょう。会話は一種類だけではないので、臨機応変に行ってください。スムーズに出るようになってから、会話を記入します。

<活動例>

ロールプレイ（役割練習）を行います。その際、「熱はありますか」「食欲はありますか」「朝何を食べましたか」など、医者からの質問をプラスアルファしながら、やりとりを皆で共有するとよいでしょう。

◆ワークシート⑥ 薬

イラストにあるような薬の実物を用意して見せるとよいでしょう。「のみます」「ぬります」「はります」「さします」がスムーズに出るように、実物を見せながら何度も発話練習を行います。最後にワークシートに記入します。

※ 病院（医院 クリニック）から薬局までの流れを説明しておくことも大切です。

イラストがあればわかりやすいでしょう。

（参考： ユニット9 教材例② p.111）

<One More Step>

支援者や学習者で実物の薬袋、あるいはそれにあたるものを持ち寄り、1日に何回飲むのか、食前か食後か、1回に何錠飲むのかなど、皆で読み取る練習をします。

（参考： ユニット9 教材例③ p.112）

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- | | |
|-----------------|----------------|
| ・また来てください。 | _____てください。 |
| ・お風呂に入らないでください。 | _____ないでください。 |
| ・会社に行ってもいいですか。 | _____てもいいですか。 |
| ・すぐ寝たほうがいいです。 | _____たほうがいいです。 |

（ワークシート⑤）

<表現>

- ・おだいじに

（ワークシート②－2、⑤）

ユニット 10

季節の行事

<ねらい>

日本の季節の行事を知り、日本の文化習慣への理解を深める。

- ・日本の季節の名前と特徴がわかる。
- ・それぞれの季節にどんな行事があるか、行事の由来、内容などがわかる。
- ・行事のポスターやチラシを読んで、必要な情報を読み取る。
- ・はがきの書き方、年賀状の表現を知り、年賀状を書く。

日本は四季がはっきりしていて、それぞれの季節には昔からさまざまな行事が行われています。お祭りや盆踊り、花火、お花見、節分の豆まきなど日々の生活に密着したものも多くあります。このユニットでは、これらの行事の由来や意味について話したり、一緒に地域の行事に参加して楽しんだりできるよう学習します。

カバーページの使い方

- ・カレンダーの周りに季節の主な行事のイラストがあります。見たことがあるか、名前を知っているものがあるか、何をしているのか、この他にどんな行事を知っているか等、QAしながら話しましょう。

- 1月 お正月（お節料理、鏡餅、お年玉）
- 2月 節分、豆まき
- 3月 ひな祭り
- 4月 お花見
- 5月 子どもの日（こいのぼり）
- 7月 七夕
- 8月 お盆（盆踊り）
- 11月 七五三
- 12月 お餅つき

- ・入門レベルの学習者には、ウォーミングアップとして1月から12月までの月の名前や季節の名前を確認し、正しく言えるか発話練習をします。特に4月（しがつ）と9月（くがつ）に注意します。

日本ではだいたい春は3月から5月まで、夏は6月から8月まで、秋は9月から11月まで、冬は12月から2月までを指し、春は「暖かい」、夏は「暑い」、秋は「涼しい」、冬は「寒い」などの形容詞や、夏の始めの「梅雨」についても紹介するとよいでしょう。

(参考：『にほんご えじてん』 1. きほんのことば)

<One More Step>

- ・国民の祝日紹介

月ごとに祝日の名前と日にちを紹介します。学習者のレベルに応じて祝日の意味と由来についても紹介します。

ワークシートの使い方

◆ワークシート①

年賀状を書く

1. はがき（おもて）のかきかた

実物を見せて、「郵便番号」「相手、自分」「住所、名前」「～様」などの語彙を導入し、はがきの書き方を紹介します。

2. いろいろな ねんがじょう

- ・年賀状に使われる挨拶の表現

実物の年賀状を見せて、お正月の挨拶と年賀状によく使われる表現を紹介します。

「明けましておめでとうございます」「謹賀新年」「初春」「迎春」

「今年（本年）もよろしくお願いします。」

「去年はいろいろ（大変）お世話になりました。今年もよろしくお願いいたします。」

- ・年賀状の日付

2020年 1月1日／元旦

令和2年 1月1日／元旦

<One More Step>

- ・和暦

年賀状の「令和」に関連して和暦を紹介します。カレンダーや手帳の西暦との対応表を見せるとわかりやすいです。生年月日を和暦でも言ったり書けたりするようにするとよいでしょう。

- ・干支

二支のイラストを見せて一つずつ語彙を導入します。「今年（去年、来年）は〇〇の年です」

と年賀状のイラストとともに紹介するとよいでしょう。何年生まれかお互いに聞き合ってみましょう。

(参考： 干支についての日本語初級者向けの読み物や紙芝居)

3. かいてみましょう

挨拶のことばを決めたら、実物大のシートで練習し、本物の年賀状に書いてみましょう。

※ まだ、文字を書くことが難しい学習者には自分の名前とイラストだけを書いてもらい、住所や宛先は支援者が代筆してもよいでしょう。お正月の挨拶「あけましておめでとうございます」は、ひらがなの書き練習になります。

※ 年賀状を準備する季節に書き方を紹介して作ってみてください。夏なら暑中見舞いのはがきでもよいです。

◆ワークシート②

もちつき大会

- ・ポスターやチラシを読む

ワークシートには餅つき大会のポスターを載せましたが、地域や学校の行事のお知らせの実物があればなおよいでしょう。

「日時、場所、参加費、無料」などの語彙を導入し、必要な情報が読み取れるようにします。難しいことばや表現はわからなくても、大事なキーワードを押さえて必要な情報がわかればよいです。

(参考： 『にほんご えじてん』 17. よみもの)

- ・「もちつき大会がありました」

参加した行事について、「いつ、どこ、誰、何」などの疑問詞を使って学習者に質問しましょう。行事でなくても休日に出かけた話でもよいです。「楽しかった、よかった、面白かった」など、形容詞の過去形を使って簡単に感想が言えるようにします。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- ・12月28日に公民館で餅つき大会があります。

_____に _____で _____が あります。

何がありますか。

いつ ありますか。

どこで ありますか。

- ・餅つき大会はどうでしたか。 _____は どうでしたか。

楽しかったです（賑やかでした）。

_____ かったです（_____ でした）。
(ワークシート②)

<表現>

新年の挨拶

- ・ 明けましておめでとうございます。
- ・ 昨年はお世話になりました。
- ・ 今年もよろしくお願いします。

(ワークシート①)

ユニット 11

仕事と職場 2 面接

<ねらい>

仕事の面接での服装・身だしなみやマナー、面接の流れを知り、面接がスムーズに行うことができる。

- ・面接時の服装や身だしなみについて知る。
- ・面接の流れや入退室、面接中のマナーを学ぶ。
- ・面接の際のはじめと終わりの挨拶表現を学び、実際に練習してみる。

このユニットでは、仕事の面接における服装や身だしなみ、入退室のマナー、挨拶の仕方について学びます。必ずこうでなければならないということはありませんが、日本の面接の様子を知った上で、面接に臨むことは大切です。好印象を与えるにはどうしたらよいか、学習者同士で意見を交換しながら進めていくとよいでしょう。

カバーページの使い方

今までに日本で仕事の面接を受けたことがあるかどうかを聞き、面接時の様子や服装などについて話し合います。カバーページを見ながら、お辞儀の角度の違いに気づいてもらい、どういうときにどのお辞儀がふさわしいか考えてみるのもよいでしょう。

- ・会釈（15°） 面接試験室への入室、退出時にドアの前でするお辞儀
- ・敬礼（30°） 面接官の前に立って挨拶するときのお辞儀
- ・最敬礼（45°） 面接を終了したとき面接官へのお礼の意味を込めてする丁寧なお辞儀

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 面接の際の身だしなみ、留意点などを学ぶ

身だしなみ（髪型、服装、靴、アクセサリ、色など）、話し方、わからないときの言い方など、学習者同士で話し合ってみましょう。

- ・髪型、服装、色

イラストには一般的な例が載っていますが、職種、職場によっても違いますので、学習者に合った職種、職場で考えるようにしてください。

(一般的な例)

髪型 男性：短髪、長い場合は束ねる

女性：長い場合は束ねる

服装 スーツでない場合、ジャケット着用か、襟付きシャツを着ることが望ましい。色は黒、紺、グレーなど目立たない色が無難

靴、かばん 暗い色が望ましい。女性の場合、素足、サンダルは避ける。

お化粧・アクセサリー 控え目な方が好感を持たれる

大切なのは清潔感、目立たない色・形・デザイン、肌の露出度が高くないことです。

・話し方

敬語が使えれば一番よいのですが、無理に敬語を使わずとも普通体ではなく、丁寧体(です、ます)で話すように心がけましょう。

実際に面接形式で練習しましょう。また面接官は敬語を使って話すこともありますので、聞き取れるようにすることも大切です。

・質問がわからないときの表現

面接官の質問がわからない時、何と言うか考えてみましょう。繰り返して聞くだけでなく、聞き取ったことを復唱して確認することも大切です。

(例)

「すみません、もう一度お願いします。」

「すみません、もう一度ゆっくりお願いします。」

「すみません、やさしいことばでお願いします。」

「～は〇〇ということですか。」

<One More Step>

面接前のマナーについて、QA をして一緒に考えてみましょう。

(質問例)

Q1 「面接会場へは何分ぐらい前に着いたらいいですか。」

→事前に調べておき、10～15 分前には着くようにします。7～8 分前になったら、受付に行きます。受付の人にも挨拶を忘れずにします。道に迷わないよう、面接会場の場所を下見しておくとういでしょう。

Q2 「30 分前に着きました。面接会場に行ってもいいですか。」

→あまり早く行くと、まだ準備中で相手に迷惑をかけることもありますので、

気をつけましょう。

Q3 「電車が遅れて遅刻しそうです。どうしたらいいですか。」

→遅刻しそうなときは、わかった時点ですぐに電話で連絡します。その場合、遅刻の理由と到着予定時刻を伝えます。

Q4 「コートを着たまま、面接会場に入ってもいいですか。」

→受付をする前、面接会場の外で脱ぎます。

Q5 「受付があります。まずどうしたらいいですか。」

→名前と要件を述べます。

「採用面接に参りました（来ました）。〇〇と申します。人事部の〇〇様と〇〇時にお約束しています。」

Q6 「携帯電話はどのような状態がいいですか。」

→電源を切っておきます。

◆ワークシート②

面接会場への入室・退室の流れと動きを学ぶ

入室

ドアのノックを軽く2回します。

→中から「どうぞ」という声がかかったら、ドアを開け、「失礼します」と言って中に入ります。

→中に入ったらドアを静かに閉めます。

→正面を向いて、深くお辞儀をします。

→椅子の横まで進み、名前を言い、お辞儀をします。

→面接官から「どうぞおかけください」と声がかかったら、お辞儀をして椅子に座ります。（声がかかる前には座ってはいけません）

面接

面接中は姿勢をよくします。

退室

面接官から終わりの挨拶があったらお辞儀をして立って、椅子の左側に立ちます。

→お礼の挨拶を述べて、深くお辞儀をします。

→ドアの前まで戻って、面接官の方を向き、「失礼します」と言い、お辞儀をします。

→ドアの外に出て、部屋の方に向き直し、静かにドアを閉めます。

◆ワークシート③

面接での挨拶表現を学ぶ

面接の流れがわかったところで、挨拶の言い方を学びます。

実際に入室から退室までの流れをことばとともに練習してみましょう。グループ面接であったり、部屋のレイアウトが違ったりする場合があります。あくまでも参考例として練習

してください。

※ 立ち方：男性は手を身体の横にまっすぐ伸ばし、女性は身体の前に両手を重ねます。

座り方：深く腰をかけ過ぎないようにします。（椅子に半分ぐらい腰をかける程度）

男性は手を軽く握り、膝の上に置きます。女性は両手を重ね、膝の中央に置きます。

<One More Step>

面接で一般的に聞かれることを模擬面接します。

※ 学習者の日本語の力に合わせて敬語を使った質問に替えたり、希望職種に合った質問を加えたりするとよいでしょう。

1. お国はどちらですか／国籍はどこですか。
2. いつ、日本に来ましたか／来日はいつですか
／日本に来てどのぐらいになりますか。
3. 日本にはあとどのぐらいいる予定ですか。
4. ご家族は何人ですか／家族構成は？
5. ここまでどのぐらいかかりますか／通勤時間はどのぐらいですか。
6. 日本語はどのぐらいできますか。
漢字はどのぐらい読めますか、書けますか。
7. これまで日本で仕事をすることがありますか。それはどんな仕事でしたか。
何年ぐらい勤めましたか。
8. どんな仕事がしたいですか／希望の職種は？
9. それはどうしてですか／志望動機は？
10. 何か資格がありますか。
11. いつから働けますか。
12. 何か希望がありますか。

ユニット 12

地域のコミュニケーション

<ねらい>

住んでいる町で、周囲の人達と円滑なコミュニケーションをとることができる。

- ・引っ越し先で、隣近所の人に引っ越しの挨拶をする。
- ・子どもの学校や保育園で先生に挨拶する。
- ・連絡帳を使って、学校に子どもの欠席の届け出をする。
- ・子どもの欠席を学校に電話で連絡する。

新しい町で生活を始めるときに、地域の人達と円滑なコミュニケーションがとれるかどうかで、その後の暮らしやすさが大きく違ってきます。日本で引っ越したときの習慣や、学校に連絡する際の手段、手続きを知っておけば、新しい町でも自信をもって生活をスタートさせることができるでしょう。このユニットでは、地域の一員として生きていくために必要不可欠な日本語を学習していきます。

カバーページの使い方

中央のイラストを見ながら、学習者やその家族が、近所の人たち、学校、保育園、役所、病院、郵便局など、同じ地域の人や施設に囲まれていることをイメージしてもらいます。丸く囲まれた4つのイラストは、学習者が地域の人たちと触れ合う場面を描いています。それぞれのイラストを見ながら、それがどんな場面か、こんなときどんな挨拶をするか話し合ってみましょう。すでにここまでのユニットで学習した日本語を振り返り、使える表現を考えることは、新生活を自ら切り拓く気持ちにもつながります。

日本での生活が長い学習者であれば、失敗を含む経験談を話すことで、このユニットの学習を通じて身に付けたいことが見えてくるはずです。カバーページのイラスト場面以外にも、どんなところで地域の人たちとコミュニケーションをとる機会があるかを話すことで、さらに会話を発展させることができます。

支援者は、この活動での会話の様子を見ながら、それぞれの学習者が今できること、この学習を通してできるようになってほしいことを確認します。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 引っ越しの挨拶

学習者が、これから新しい町に引っ越す予定であれば、その地域や新しい住まいの様子などを聞きながら、新生活をスタートさせるというイメージを膨らませてもらいます。日本の習慣として、引っ越した日か、遅くともその翌日には、近所の家へ挨拶に行くというよいことを教えます。具体的にどこへ挨拶に行くかは、実際に住むことになる住居の状況にもよりますから、それを確認した上でアドバイスするとよいでしょう。

<活動例>

引っ越しの挨拶の会話は、できれば支援者2人でモデルを見せるとわかりやすいでしょう。2人でできなければ、ペープサートやパペットなどを活用しても臨場感のある会話になります。ワークシートにある基本的な会話例を聞かせて、聞き取れたことを言ってもらいます。「(部屋番号)の(名前)です」「どうぞよろしくお願いします」「ありがとうございます」などは、すでに慣れ親しんだ表現ですから、すぐに理解できるはずです。

その上で、覚えてほしい新しい表現として「これから、お世話になります」を取り出して紹介します。どんなことで「お世話になる」のか、具体例をあげると意味を理解しやすいでしょう。引っ越しの挨拶には簡単な贈り物を添えるのが慣例であることを教えて、「ほんの気持ち」で渡す品物はどんな物か、実物の例を見せて、あまりふさわしくない品物についても紹介しておきます。表現は、いずれも定型表現として覚えてしまうようにしましょう。挨拶された側が言っている「わからないことがあったら、聞いてください」や「それはどうもご丁寧に～」などは、どんなことを言っているかが聞いてわかればよいので、入門期の学習者が自分で言える必要はありません。

新しい表現が言えるようになったら、ワークシートの基本会話を支援者とペアで練習します。クラスに在日が長い学習者がいれば、挨拶される側になってもらってもよいでしょう。

<One More Step>

基本的な会話ができるようになったら、学習者の生活状況に合わせて、ワークシートの下部にあるような例文を追加して紹介します。この通りに言う必要はなく、学習者の日本語力に合わせて加減してください。

◆ワークシート② 学校や保育園での挨拶

新しい町に引っ越して、初めて子どもを学校や保育園に連れて行くときの挨拶を練習します。「お世話になります」は、すでに引っ越しの挨拶のときに使っていますから、応用

しやすいでしょう。学校で名乗るときの「(子どもの名前)の父・母」という言い方を覚えます。基本的なやりとりができるようになったら、先生役の支援者が、学習者の家族構成に合わせて、話しかけることばを替えてください。

(例)「〇〇ちゃんは、家で何をして遊びますか」

「〇〇君は、家でどのぐらい勉強しますか」など

それに、臨機応変に応える練習を繰り返すことで、実践的な力が付いていきます。

<One More Step>

登校、登園第一日目の会話に自信が付いたら、運動会や保護者会など、その他の場面での先生や、子どもの友達の父母との会話にもチャレンジしましょう。その場合には、「いつもお世話になっています」という表現が加わります。「これから、今日から」と「いつも」の使い分けができるようにします。

(参考： DVD『ようこそ！さくら小学校へ ～みんな なかまだ～』)

◆ワークシート③ 連絡帳

日本の小学校での主な連絡手段は連絡帳です。欠席や遅刻の届け出も、連絡帳に書いて提出するのが正式な手続きになります。どこに何を書くのかがわかっているならば、難しいことではありません。事前に練習しておけば、実際の場面でも慌てることがないでしょう。

<One More Step>

欠席や遅刻を連絡するシンプルな文が書けるようになったら、少し複雑な状況を設定して、「こんなとき、どう書く？」を一緒に考えてみるのも、実践的な練習になります。

(例)「小麦粉のアレルギーがあります。パンを食べません」

「宿題が難しいので、一人でできません」など

イスラム教徒の子どもも増えていますので、宗教上の理由で食べられない食材がある場合もあります。学習者の背景、家庭環境に合わせて、練習してみましょう。

(参考： 『にほんご えじてん』 13. がっこう・ほいくえん)

◆ワークシート④ 電話連絡

通常の欠席や遅刻は連絡帳で届け出るとしても、緊急の場合は電話で連絡する必要があります。その場合は、「先生を呼び出す」という作業が加わりますから、連絡方法に慣れておく必要があります。子どもの学年・組を言うことと、「〇〇先生をお願いします」という呼び出し方がわかれば、その他の表現はワークシート③までで扱っていますから、その応用で会話が進められるはずです。電話連絡については、ユニット8ワークシート②-1も参考にしてください。

<One More Step>

少し複雑な状況を設定して、「こんなとき、どう言う？」を一緒に考えてみるのも、実践的な練習になります。

大切な文のかたちや表現

<表現>

- ・これから（今日から）お世話になります。

（ワークシート①）

- ・（子どもの名前）の父・母です。

（ワークシート②、④）

- ・いつもお世話になっています。

- ・（人の名前）さんをお願いします。　　〔電話での呼び出し〕

（ワークシート④）

ユニット 13

身近な人と話す

<ねらい>

近所の人など身近に接する人たちとスムーズにコミュニケーションをとることができる。

- ・身近な人たちと簡単な会話のやりとりをする。
- ・近所の人や友達を自宅に誘う。
- ・わからないことについて質問する。

近所の人や子どもの友達のお母さんたちと、挨拶だけでなくさまざまな話題について話をしたり、わからないことを気軽に聞けたりできる関係を築くことはとても大切です。このユニットでは、身近な人とコミュニケーションをとるための表現を、インタビューや自宅に誘う場面、わからないことについて尋ねる場面などを例に練習します。

カバーページの使い方

カバーページには、友達と話す際によく話題になること、例えば、家族、学校、病院、休暇、買い物、行事などのイラストを載せています。まずそれらを一緒に見て、自由に話し合ってみましょう。

※ まだよく話せない学習者とは、自分の好きなことやもの、家族の話や毎日の生活についてなど話しやすい話題を選び、必要な語彙・表現を紹介しながら発話を促します。

※ ユニット1「自己紹介」、ユニット5「毎日の生活」、ユニット9「健康と病気」をご参照ください。

ワークシートの使い方

◆ワークシート①

ききましょう！はなしましょう！

- ・クラスでお互いにインタビューの練習をします。まず、誰にインタビューするか決め、その人に聞いてみたいことを考えて質問の文を作ります。「誰、どこ、何、いつ、どうやって」などの疑問詞が使えるように練習します。入門の学習者は、家族や好きなもの、趣味についての質問がしやすいでしょう。

(質問例)

「お名前は？」

「うちはどこですか。」

「家族（ご家族）／子ども（お子さん）は何人ですか。」

「好きな食べ物／飲み物／動物は何ですか。」

※ 質問は繰り返して口頭練習し、覚えてすらすら言えるようにしましょう。

※ ユニット1 自己紹介を参照してください。

(参考： 『にほんご えじてん』 2. かぞく・ひと 5. たべもの)

- ・ 質問文ができたなら、話しかけるときのことば「すみません、今（ちょっと）よろしいですか」と最後のお礼のことば「ありがとうございました」や、「もう一度お願いします。」「ゆっくりお願いします。」「書いてください。」などの表現を紹介します。これらの表現は他の場面でも使える便利な表現なので、何度も練習して覚えるようにしましょう。
- ・ 口頭練習ができたならクラスメートや支援者にインタビューをします。質問の答えはよく聞いてメモをしておきます。
- ・ インタビューが終わったら、誰に何を質問して答えはどうだったかなど、QA をして確認します。

<One More Step>

- ・ インタビューの内容をまとめて話せるようにするとよいです。文字が書ける学習者は文章化するとよいでしょう。

(例)

「〇〇さんにインタビューしました。〇〇さんは～に住んでいます（〇〇さんの家は～にあります。〇〇さんの好きな食べ物は～です。…）」

- ・ あいづちのことば

「それで?」「それから?」「面白いですね。」「すごいですね。」「たいへんでしたね。」「たとえば?」などのことばを紹介し、会話が続けられるようにします。

◆ワークシート②

自宅に誘う

保育園（幼稚園）のお迎えの帰りに、友達を自宅に誘う場面と翌日の会話場面です。まず、絵を見てどんな場面かイメージしてもらいます。それから語彙、表現を導入して音読

練習をします。なめらかに言えるようになったら、ロールプレイ（役割練習）をします。学習者同士でも練習し、次のような便利な表現は場面を変えてたくさん練習し、そのまま覚えるようにするとよいでしょう。

※ 便利な表現

- ・「今、ちょっと時間ありますか？」
- ・「よかったら～ませんか？」
- ・「じゃ、ちょっとお邪魔します。」
- ・「どうぞ。」「いただきます。」
- ・「今度はうちにも来てください。」
- ・「ええ、ぜひ。」
- ・「じゃあ、また。」

※ 友達の家に呼んでもらったら、次に会ったときにお礼を言い、自分の家にも誘うようにするとよいでしょう。

<One More Step>

「～ませんか？」

いろいろな場面を作って誘う練習をします。「いいですね。ぜひ」「すみません、今日はちょっと・・・／都合が悪いです」などの返答も紹介し、ロールプレイ（役割練習）をします。

◆ワークシート③ わからないことを聞く

わからないことを尋ねる言い方を練習します。

内容がわからない物を直接見せて、「これ、わからないんですけど・・・何でしょうか？」と聞くのが一番手っ取り早いです。話しかけるときは、「すみません、／あのう、・・・」と声をかけ、「わからないんですが、・・・」と「～んですが、・・・」を使うとよいでしょう。

「～んです」は、文法的な説明はせずに、使う場면을提示して、表現としてまるごと覚えてもらうとよいです。

「すみません、もう一度お願いします。ゆっくりお願いします。書いてください」の表現も復習し、適切に言えるか確認します。どうしてもわからないときは、「すみません、わかりません。」と言えるように練習します。

※ ワークシート②と同様、次に会ったときは「昨日（先週、この間）はありがとうございました」とお礼を述べます。また、おすそ分けの文化と表現「ちょっとこれ、たく

さんもらったんですが・・・どうぞ」も紹介するとよいでしょう。

大切な文のかたちや表現

<表現>

- ・すみません、今ちょっといいですか。

(ワークシート①)

- ・すみません、これ、わからないんですが。

- ・昨日（この間）はありがとうございました。

(ワークシート③)

ユニット 14

公共マナー

<ねらい>

公共マナーを守り、快適な社会生活を送ることができる。

- ・さまざまな公共の場でのマナーを知る。
- ・禁止マークを見て、理解する。
- ・ごみの分別、リサイクルの知識を身につける。

日本で快適な社会生活を送るには、まず社会のルールを知っておくことが大切です。このユニットでは、隣人や周囲の日本人といい関係が作れるよう、身近なところからルールを意識してもらいます。

カバーページの使い方

それぞれの写真や絵を見て、どんな場所で見える光景か、こんな状態や場面を見たことがあるか、このような状況で困ったことがあるかなど話し合ひましょう。また下の車内での行動は、なぜいけないのか、またほかにどんなことがマナー違反だと思うかなども併せて考えてもらいましょう。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 騒音

絵を見ながら、音を出して迷惑になる状況を話し合ひましょう。時間に注意することはもちろん基本的なマナーですが、ある程度は親しさの度合いでも違ってくるでしょう。こちらがやむを得ない事情で音を出す状況があるとき（室内工事など）などは、前もって断りを入れておくのも近所付き合いでは大切なことです。

◆ワークシート② 車内マナー

ひとつずつ絵を見て、いい場面はどれか、よくない場面はどれか、話し合ひましょう。よくない場面はどうしてよくないのか、いい場面、よくない場面を含めてこのような場面に遭遇したことがあるか、そのときどう思ったか、またあなたならどうするかなども考えてもらいましょう。

<活動例>

電車の優先席ではどんな人が優先されるのか、また優先席付近ではいけないことなど考えてもらいましょう。その後で優先席のマークも見せて理解を深めるとよいでしょう。

<One More Step>

- ・車内のマナーポスターをいくつかプリントアウトして見せ、会話を広げましょう。
- ・学習者の国でのマナー事情を日本と比較しながら話してもらいましょう。

◆ワークシート③

マーク

イラストの絵を利用して絵カードを作成し、それを見て「～ないでください」の形で発話してもらいます。学習後に線結びを行ってください。

<活動例>

イラストの絵を並べて、カルタを行います。

<One More Step>

学習者にいろいろな禁止マークを携帯で撮ってきてもらい、どこで見つけたのかも話してもらって、皆で何のマークであるかを共有します。

◆ワークシート④－1

ごみの分別

分別ごみの言い方を学習します。「燃やすごみ／燃やさないごみ」「燃えるごみ／燃えないごみ」など地域によって言い方が異なっているようです。分別の方法も地域によってさらに細かく分けられていることもあるので、そのことも伝えておくといよいでしょう。

<活動例>

- ・支援者が、いろいろなごみの絵カードを用意しておき、学習者に燃えるごみ、燃えないごみ、資源ごみ、大型ごみに分類してもらいます。オムツなどどこに分類されるか調べておくとよいでしょう。
- ・地域のごみカレンダーを用意し、ごみの種類別に週に何回出すことができるか、または、ごみの絵カードを示して、何曜日に出せるか答えてもらいます。
- ・支援者の家庭にあるごみの分類表をコピーしてそれぞれの学習者に渡し、実物の分類表を見ながら、理解を深めます。
- ・粗大ごみの出し方もここで学習しておきましょう。ごみ処理場に直接持っていく方法もありますが、ここでは電話で申し込む方法を学習します。電話でのやりとり練習に加えて、「有料粗大ごみ処理券」の実物を用意して、見せるとよいでしょう。どこで購入するか、

A 券と B 券の値段、など知らせておく と 便利 です。

◆ワークシート④－2 ごみの分別→リサイクルへ

リサイクルできるいろいろな品物を用意し、学習者にリサイクルマークをみつけてもらいましょう。学習者同志で共有し、自分の地域では、いつ出すことができるかなど考えてもらいながら、リサイクルの意識を高めます。家電4品目（エアコン テレビ 冷蔵庫 洗濯機）の正しい処分法を知っておくことも大切です。粗大ごみでは出せないことを伝えておきましょう。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

・ごみをすてないでください。

_____ないでください。

(ワークシート③)

ユニット 15

仕事と職場 3 コミュニケーション

<ねらい>

職場で指示に対する応答ができ、作業をすることができる。

- ・ 上司から指示を受けたとき、理解度に応じた受け答えをする。
- ・ 同僚から誘いを受けたときに返答する。
- ・ 作業指示のことばを理解し、対応できるようにする。

職場でのコミュニケーションは、気持ちよく仕事をしたり、人間関係を築いて仕事の面で信頼を得たりするのに大切です。

このユニットでは、工場などで作業する場面を作り、職場の日本語を学習します。ワークシートが3枚ありますが、①②③の順にやるより、挨拶も作業指示の練習も並行して、少しずつ数日に分け繰り返し行ってください。また、ユニット8の職場の挨拶も一緒に練習するとよいでしょう。

基本的に、工場の日本人はグレー服で左側に、学習者は青服で右側にしてあります。また、会話の始めを左側に、受け答えを右側に配置してありますが、以下、例外です。

(例外) ワークシート②下段の場面： 左は紺色の服で社外のお客さま設定

(例外) ワークシート②中段の場面： 右側から会話スタート

カバーページの使い方

職場の一日の流れを理解し、各場面での会話の練習をします。

- ・ 初日の挨拶、タイムカード、朝礼、体操、休憩時間など、職場の一日の各場面が、例としてあげられています。学習者と一緒に、どんな場面か、何をしているか、いろいろ話してください。
- ・ 場面ごとに未習の語彙（タイムカード、自動販売機、台車など）も紹介して、どんな会話がされるか一緒に考えましょう。
- ・ ワークシート①②で各場面の表現が言えるようになったら、またカバーページに戻り、一日を通しての会話練習をしてみましょう。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 挨拶や受け答えの練習

あいさつ表現(1)の上段は初日の挨拶です。下段は注意を受けた時です。

あいさつ表現(2)の上段と下段は同僚に誘われた時の受け答えです。

※ 上司からの指示への返答として(1)の中段と(2)の中段を練習してください。ここでは別ページになっていますが、練習時は教材例①(p. 113)のような絵カードにするとよいでしょう。

(参考： ユニット 15 教材例① p. 113)

- ・基本的な表現を場面ごとに切り分け、絵カードにして使ってください。ユニット7ワークシート①を参照してください。滑らかに言えるようになるまで、何回も言って練習しましょう。きちんと言えると与える印象がよくなります。円滑に仕事を進めるためにも頑張って練習しましょう。
 - ・指示されたことがわからないことを伝えるのも大事です。聞いていると言う意味で「はい」「はい」と答えていると、指示を理解したと思われてしまいます。また、「わかりません」だけを強く言ってしまうと印象があまりよくありません。わからないときの受け答えの練習をしましょう。
 - ・このワークシートの場面だけでは少ないです。この他、学習者の職場の表現など、いろいろな場面の絵カードを増やして練習してください。
 - ・フラッシュカードのように教師・支援者が見せる絵カードを皆で言ったり、学習者同士でお互いに練習したりしましょう。
 - ・「すみません」のバリエーションも練習しましょう。謝るとき、誘いをやんわり断るとき、人に声をかけるときなど、合わせて表情や声の調子の違いも練習しましょう。
- (参考： 『にほんご えじてん』 1. きほんのことば)

<Information>

「すみません」と謝ると、自分が悪いことを認めることになるから言いたくないと思う人がいるかも知れません。日本ではそこまで強くなく、言わない方がよくない印象を与え、場がぎくしゃくすることもあります。

<One More Step>

- ・自分が作業グループのリーダーになり、指示を出す練習をしてみましょう。
- ・職場（工場）の標識なども学習しましょう。

◆ワークシート②

丁寧な言い方の練習

- ・丁寧な言い方はできる範囲で練習しましょう。口が回らず無理な場合は、丁寧な言い方にこだわらず、基本の普通の言い方をしっかり練習しましょう。その場合は、態度や姿勢で丁寧さや気持ちが伝わるように練習しましょう。
- ・中段は質問したいときなどの切り出しの表現です。これは基本でも必要なものなので、「よろしいでしょうか」が言えなくても「いいですか」などの学習者が言いやすい言い方で練習してください。

※ ワークシート①②と合わせて、ユニット8「仕事と職場1 挨拶・連絡」の職場の挨拶も、ここで一緒に発話練習をするとよいでしょう。

◆ワークシート③

指示通りに作業する練習

- ・実際の指示を出すときは「～して」の形でも練習してください。
この形は、学習者が言う練習をすることはありませんが、聞いてわかる必要があります。
- ・ここを出した動詞は教室内で練習しやすいものなので、指示文は適宜表現を変えてください。
工場などでは「ボタンを押して」「スイッチを入れて」「止めて／動かして」などがあるでしょう。学習者の職場に応じてことばを選び、指示されたことがわかるよう練習をしてください。
- ・ワークシート①で練習した指示に対する受け答えを合わせて一緒に練習しましょう。作業が終わったら「終わりました」と報告できるようになるといいので、「終わりました」も適宜練習してください。また、余裕のある学習者には、イラストの上のように指示された動詞で「～ました」と報告する練習もしてみましょう。
- ・動作動詞は、指示することばを言いながら教師・支援者が動いて見せ、次に学習者と一緒に動いて練習していきます。学習者がわかってきたら教師・支援者は動かず指示のみ、学習者が動くというようにします。
理解に時間がかかるようだったら『にほんご えじてん』のイラストを参考にしてもよいでしょう。（例えば⇒）このユニットは、『にほんご えじてん』12. しごと に対応していますが、ほかに、『にほんご えじてん』7－5 反対の動詞 のページも使ってください。
（参考： 『にほんご えじてん』 7. まいにちの せいかつ 12. しごと ）

<活動例>

実物を使って、指示の動作を2～3個ずつ導入していき、大体指示通りに動けるようになったら、次の新しい指示を足していくように練習してください。

- ・「開けて」「閉めて」はセットで練習するとよいでしょう。

何を開閉するか語彙は先に確認しておく。(窓、ドア、ブラインド、ふた、棚の扉など。)

- ・「取って」「運んで」「置いて」「並べて」

1つの机に工具や文房具、小物など適宜置いておき、もう1つの机の上に移動させる。

「運んで／置いて」は、大きめの荷物や椅子などを、別の部屋から移動させてもよいでしょう。

- ・「どかして」「拭いて」「集めて」「片付けて」「戻して」「捨ててきて」

掃除の流れで練習してもよいでしょう。「元のところ」が難しい場合は「戻して」だけで十分です。「戻して」はいつも定位置にある道具などを使ったら返すというような場面で練習します。

<One More Step>

否定の指示も大切です。「触らないで」「開けないで」「混ぜないで」など、事故を防いだり危険から身を守る際に使われることが多いでしょう。聞いてわかるようにしたいものです。

理由と一緒に理解できると更にいいので、「～から～ないで」の練習もあるとよいでしょう。

大切な文のかたちや表現

<文のかたち>

- ・まどを あけてください。

_____を _____てください。

- ・さわらないでください。

_____ないでください。

(ワークシート③)

<表現>

- ・今日からお世話になります。
- ・はい、わかりました。
- ・(気をつけて)
- ・(お昼、一緒にどうですか。)
- ・いいえ、ちょっと。 / すみません、今日は ちょっと…
- ・すみません、もう一度、お願いします。

- ・（帰りに一杯どう？）
- ・はい、ぜひ。

（ワークシート①）

※ 上記（ ）内は、言えなくても聞いてわかればよい。

- ・承知しました。
- ・よろしいでしょうか。
- ・誠に申しわけございません。

（ワークシート②）

ユニット 16

自国紹介

<ねらい>

自分の国やふるさについて、まとめて話することができる。

- ・ふるさとの自然や生活を話すのに必要な表現を学ぶ。
- ・自分の話したいことをまとめて絵や作文にし、それを発表する。

学習者が地域に定住後、周囲の人たちからふるさとのことについて尋ねられる機会はしばしばあるようです。職場や近所の人とのちょっとしたおしゃべりで話題に出ることもあるでしょうし、子どもの学校や地域の国際交流の催しで文化紹介を頼まれたりすることもあるでしょう。そのようなとき、自分の国やふるさについて日本語でまとめて話した経験があれば、自信をもって話すことができます。このユニットでは、自分の国やふるさとの自然や生活について紹介する方法を学ぶ中で、自律学習力や自己表現力も身に付けていきます。

※ タイトルは「自国紹介」となっていますが、これは国籍国ということではなく、本人の意識としての「ふるさと」の紹介を意味しています。それぞれの学習者が、自分の民族の土地のことや難民として生活したキャンプや町など、本人が取り上げたい思い出の場所を対象としていただければよいと思います。



学習者の中には、過去や出自について触れたくないという方もいるので、このトピックを取り上げるかどうかは様子を見ながら決めてください。国やふるさについて取り上げない場合は、日本で生活している場所について話してもらってもよいでしょう。

カバーページの使い方

カバーページでは、学習者がふるさについて思い出し、語りたくなるような写真や絵を掲載しています（このテキストはタイのメラキャンプから来日したカレン民族の第三国定住難民のために作成された教材なので、ここではカレン民族の風習やキャンプの様子がわかる写真を載せています）。皆さんの学習者が説明したい写真や絵、品物などを自分で持ってこられれば、それが一番よいですが、できない場合も多いですし、支援者にとっても、

自分が知らない場所だった場合は、的確な資料をそろえるのが難しいと思います。ですから、イントロダクションとしては、あまり無理せずに、地図程度を用意して実際に学習者の話を聞きながら話を膨らませていくことで十分です。この段階で大切なのは、話しやすい雰囲気を作って、学習者にこのユニットのテーマであるふるさとについて自由に話してもらうことです。そのやりとりの中で学習者の興味の在りどころも探っていきましょう。

ワークシートの使い方

◆ワークシート① ふるさとについて話す

- ・ ①－１では、カバーページで話を自由に広げた後の次のステップとして、自然、家、仕事、食べ物、好きなこと・物、行事など、トピック別にさらにやりとりをします。その中で、必要な語彙も導入していきます。ここにあるトピックはすべて取り上げる必要はなく、本人の関心のあるものを中心にしてください。
- ・ 話したことのまとめとして、①－２には質問があります。口頭で答えてもらってから、短文でも単語でもよいので、話したことを書いてもらってください。

(1.～5.の質問は例です。実際に行ったやりとりにあわせて質問してください。)

※『にほんご えじてん』「9. ふるさとのしぜん」ではタイ山間のキャンプから来たカレン民族の人たちを対象にした語彙が集められています。皆さんの学習者の母国の環境にあわせて語彙を補ってください。

<One More Step>

時間に余裕がある場合は、自分のふるさとについて学習者に考えてもらう前に、支援者が自分のふるさとの紹介をしてみせると、これから何をするか学習者にイメージをもってもらうことができます。

◆ワークシート② トピック例：料理の作り方、キャンプの生活

ここでは自分の国やふるさとを語る切り口として、料理、難民キャンプの生活というふたつを選び、やりとりにより学習者の話を引き出します。

- ・ ワークシート②－１では、ふるさとの文化の紹介例として、料理を取り上げました。料理のことが話題にできると、話が広がりますし、実際に定住した地域で料理を作って紹介する機会などにもつながります。

ふるさとで皆が食べている料理について、その名前、食べるとき（日常的な食事か祭りなど特別な日の食べ物かなど）味や材料、作り方などを聞いていき、その中で、必要な語彙（味覚の表現、材料、煮る・焼く…等の動詞等）を紹介しましょう。

ワークシート②－１、②－２は、作り方を順序立てて説明するためのワークシートです。

「はじめに、つぎに、それから、さいごに」などの順序を表すことばは、料理だけでなく、説明をするときに広く使えることばなので、慣れていくとよいでしょう。

(参考： 『にほんご えじてん』 ５． たべもの ７． まいにちのせいかつ)

- ・ ワークシート②－２では、国やふるさとにいたときの一日の生活を取り上げます。ユニット５「毎日の生活」を参考に、一日の生活を話してもらいましょう。日本での生活と何が違うか、よかったこと、不便だったこと、などを聞いて話を膨らませましょう。
- ・ ワークシート②－１、②－２とも、やりとりで話を聞き出したことを、可能なら簡単なメモ程度にまとめてもらいましょう。

<One More Step>

ここにあげたワークシートは、ふるさとの生活を紹介する切り口のうちの、ほんのふたつの例にすぎません。それぞれの学習者が関心のあることについて、話が広がるように必要な語彙・表現を示しながらやりとりをし、話したいことをまとめてメモ程度を作成してもらいましょう。

◆ワークシート③ ふるさとについての発表

ワークシート２で、やりとりしたことやメモを元に原稿を書き、クラスの内外の人の前で発表します。

- ・ 学習者の中には、これまで母語でも文字を使ったことがない人や作文を書いたことがない人たちもいます。その場合は、初めから文字を書いてもらおうとせず、まず絵を描いてもらい、それについて口頭で説明してもらったことをひとつずつ文章化していきましょう。

※ カレン民族の非識字者の例

学習者に「キャンプの家を描いてみましょう、家の前に何がありましたか」などと聞きながら、まず絵を描いてもらいました。そして、今度はもう一度、描いた絵について「家の前に何がありますか」などと聞いて、答えてもらったことを一緒に短文にしました。この答えをつなげると以下のような作文になりました。最後に絵を示しながら、ひとりでまとめて話してもらいました。

家のうしろに山がありました。キャンプの山のまえにおてらがありました。
パゴダもありました。わたしは１か月に２かいおいのりしました。
おてらのまえにおいもありました...

- ・発表の内容は、国の全体的な紹介でもよいですし、特色のある風習や場所、食べ物など話したいことを選んで話してもらってもよいです。一部にクイズなどを入れても楽しい発表になります。あくまで学習者の自主性に任せつつも、迷っている学習者にはアイデアを提供しましょう。
- ・発表の際は視覚的な補助があった方が、発表者も説明しやすいですし、聞く方にもよくわかります。カバーページの使い方でも書いたように、可能な範囲で、写真や絵、実物などを学習者と相談しつつ用意しましょう。学習者が料理を作ってくれたり、民族衣装を着てみせてくれたりする場合がありますが、学習者の負担にならないように気をつけつつ、よい発表になるよう支援しましょう。
- ・話を聞いてもらう人には、発表の後でできるだけ内容について質問をしてもらいましょう。準備した発表とは違い、その場で質問に答えることは学習者にとっては難しいことですが、よい経験になります。また、最後には一言コメントをもらうようにすると、学習者の励みになります。その際、可能なら、聞いてもらう人に、漢字の多用や続け字を避け、わかりやすい字で書いてもらうよう、あらかじめお願いしてください。

<One More Step>

発表をクラスで行った後、地域の交流会や集まりでも話す機会が作れば学習者の励みになります。同じ話題を繰り返し話すことで、自分のレパートリーとして自信をもって話せるようになっていきます。

大切な文のかたちや表現

<表現>

- ・初めに_____します。
- 次に_____します。
- それから_____します。
- 最後に_____します。

(ワークシート②-1)

ユニット 17

災害

<ねらい>

日本の災害に備えることができる。

- ・ 起こり得る災害の種類を知り、どのような被害があるか理解する。
- ・ 非常持出袋を準備する。
- ・ 居住地付近の避難場所を確認し、家族の連絡先もお互いわかるよう準備する。

不慣れなことばで災害状況に対応するのは多大な困難を伴います。事前に非常時に備えて心得ておく情報をしっかり把握しておくこと、周囲の人との連携を強めておくこと、最低限必要となる日本語を理解して、使えるように準備しておくことが大切です。基本的な語彙・表現だけでなく、地域に即した事前の心得・準備などの情報を伝えてください。発展学習のヒント (p. 123) に記載したサイトはPC版です。支援者の準備にお使いください。学習者はPCではなくスマホを持っていると思います。スマホの災害アプリなども活用して使い方を紹介してください。

カバーページの使い方

イラストを見ながら、日本での災害について話してみましょう。

- ・ 上部の枠で囲ってあるイラストは、何を表しているか、どんな被害が起こり得るかなど話し合いに使ってください。
- ・ 枠以外のイラストは、災害の種類です。振りがなを読んでみましょう。

イラストだけで理解できない場合は写真など準備しておいて、見せてください。

(参考： 『にほんご えじてん』 11. さいがい)

ワークシートの使い方

◆ワークシート① 日本の災害と自国の災害の比較

- ・ 災害の言い方のマッチングです。イラストとことばを線で結びましょう。覚える練習に使用するものですが、語彙を無理に覚える必要はありません。
- ・ 学習者の国での災害について話し合いましょう。その際に、災害の言い方をなるべく言うようにして、自然にことばが覚えられるとよいでしょう。ことばが覚えられなくても、カバ

一ページを見ながら話して災害の言い方を意識するようにしましょう。

◆ワークシート② 非常持出袋の理解と準備

- ・②-1 は非難するときに必要なものの例をイラストで表したものです。
物の名前を確認しながら、必要な理由などを考えましょう。
 - ・②-2 は②-1 の例を参考に、自分にとって必要と思う物を書き出してみたものです。
 - ・②-1 で中身のイラストを実物と合わせて、何か、どう使うかなど学習するとよいでしょう。
 - ・家族の構成によって、必要な物は違ってきます。学習者個人に合わせて中身を考えましょう。
- (参考： 『にほんご えじてん』 11. さいがい)

<活動例>

- ・それぞれが家で持ち出し袋を準備できるように、教材例① (p. 114) のようなワークシートに日本語や母語で書いて、自分用に必要なリストを作りましょう。文字学習が難しい人は、写真や絵を貼ったりイラストを描いたりして自分用を作成しましょう。
 - ・家に備蓄しておく物、持ち出し用に準備する物、それぞれについて確認してみましょう。
 - ・今家にある物、ない物をチェックして、ない物はどこで買うかなど話し合しましょう。
- (参考： ユニット 17 教材例① p. 114)

◆ワークシート③ 避難場所と連絡先の確認

- ・避難場所は、地図が描けない人は、地域のお知らせやホームページから地図をとり貼ります。
- ・家族の名前や、家族との連絡の取り方も、いろいろ練習してください。

<活動例>

- ・避難地図ができれば、家にいるとき、駅にいるとき、スーパーにいるときなど想定して、いろいろな場所から避難場所までの行き方を確認して、さまざまなシミュレーションをして練習してください。
道順の言い方の練習は、ユニット7「町へ出かけよう」ワークシート②にあります。ここでは、言い方の日本語を覚えるより、学習者が避難場所に行けるかの確認を優先してください。
 - ・家族の名前や連絡先の言い方、日本人から聞かれたときに答えられるよう練習してください。
- 言うのが難しい場合は、持ち歩いて見せられるよう、教材例② (p. 115) のようなワークシートで、連絡先のリストを作成しましょう。

(参考： ユニット 17 教材例② p. 115)

<One More Step>

- ・ 停電や断水など非常事態や家屋の損壊の経験があるか、あったらどう対応したかなど話してみましょう。
- ・ 日本での場合に備え、教材例③ (p. 116) のような設定で話し合っ、情報収集に必要なことばや、分が知りたいことの聞き方などを練習してメモしましょう。また、話し合いや練習から得た情報、「災害に役立つ豆知識」なども調べてメモしましょう。

(例)

語彙として 給水車、ブルーシート、充電、発電機、など

表現として ブルーシートをかけます、など

質問として 「水はどこで貰えますか」

「(携帯の) チャージはどこでできますか」 など

情報として 充電できるスポット、など

豆知識として 懐中電灯上に水を入れたペットボトルを乗せて周りを照らすなど

参考： 警視庁ホームページ

トップページ>安全な暮らし>災害に備える>

災害対策課ベストツイート集>便利技

(参考： ユニット 17 教材例③ p. 116)

※ ここでは台風設定ですが、ほかの状況も練習してみましょう。

はじめまして。

_____ です。

_____ に

_____ から きました。

_____ じん です。

かぞくは _____ にん です。

すきな いろは _____ です。

すきな たべものは _____ です。

しゅみは _____ です。

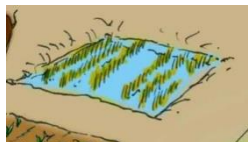


どうぞ よろしく おねがいします。

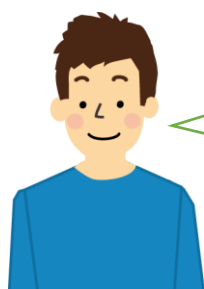


名前

田中幸子です。「田中」は みょう字で、家族の 名前です。
 「田んぼに かこまれた ところ」という
 いみで、「いなか」という いみも あります。
 「幸子」は わたしの 名前です。
 「幸」は 「しあわせ」という いみです。



あなたの 名前について 教えてください。



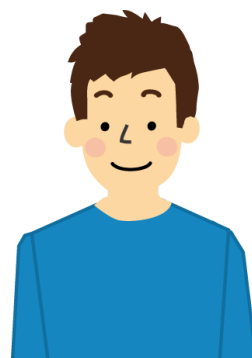
○△は、父の 名前です。
 ◇△は、_____という いみです。

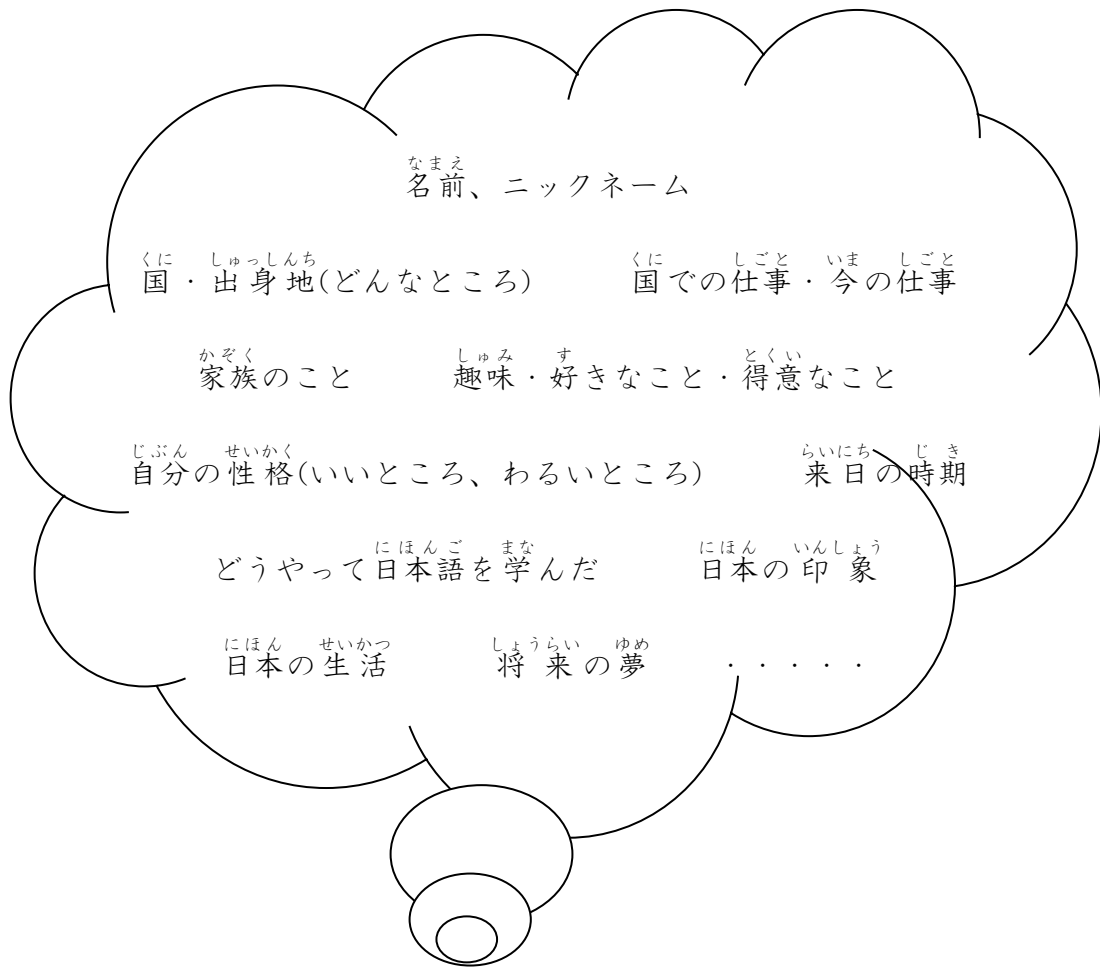
しごと



いつ（～さい）	どこ	なに

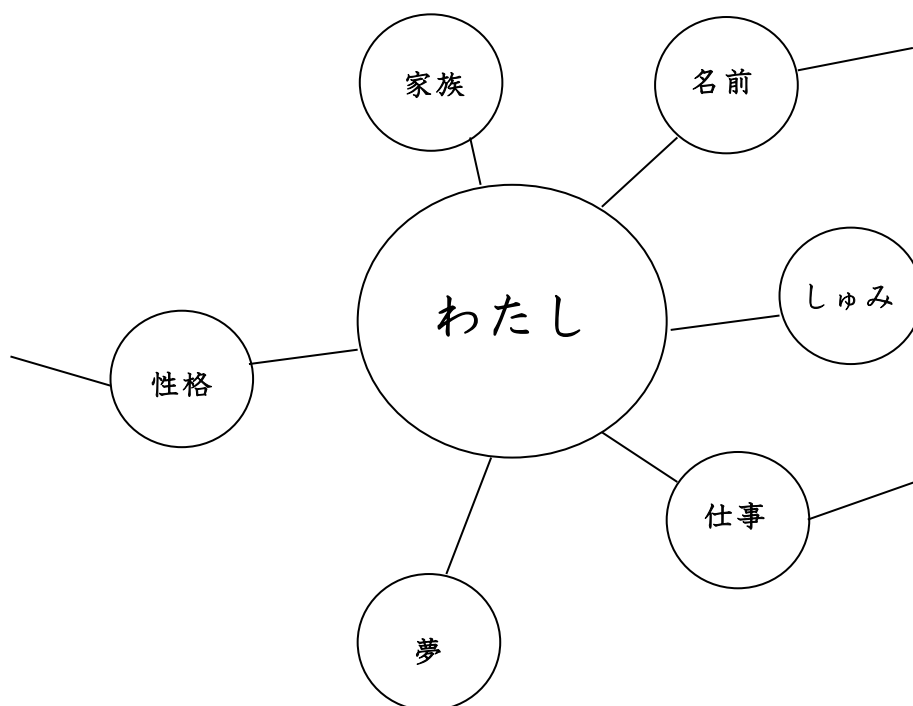
25さいのとき マレーシアで
コックを していました。
30さいのとき





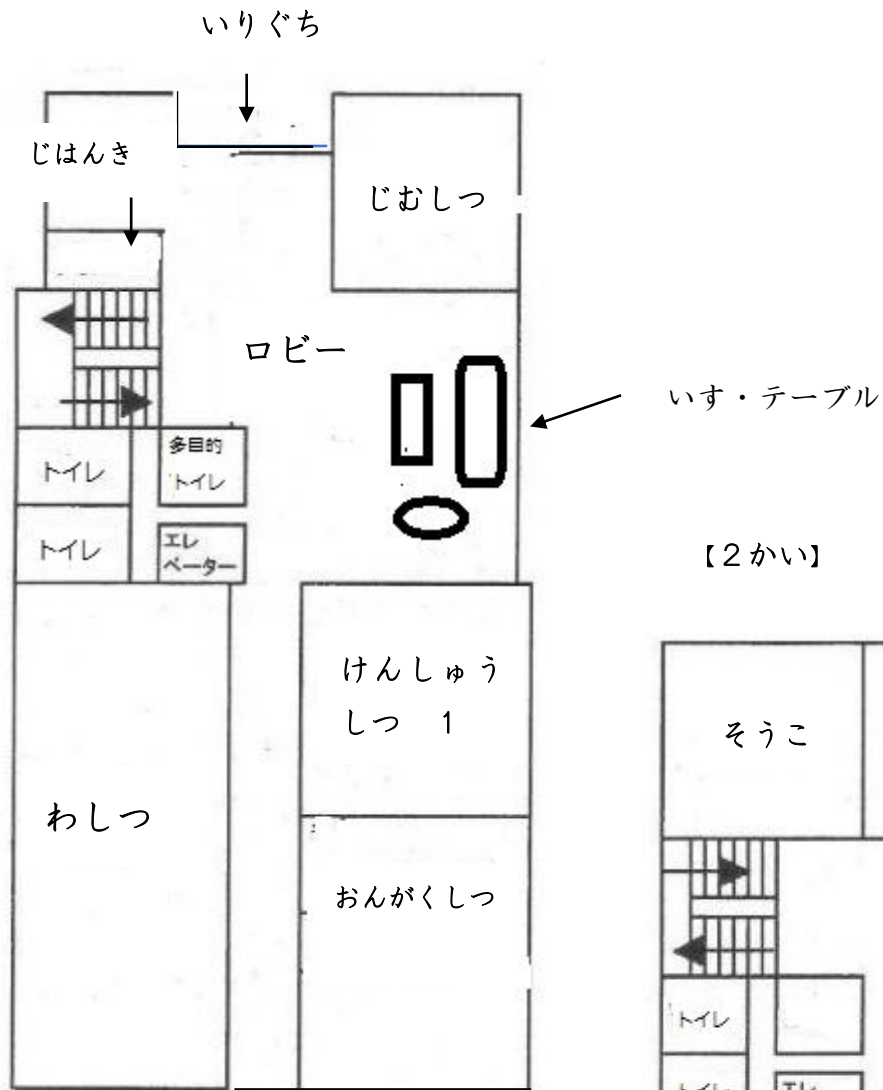
わたしは こんな人

マインドマップを つくりましょう！

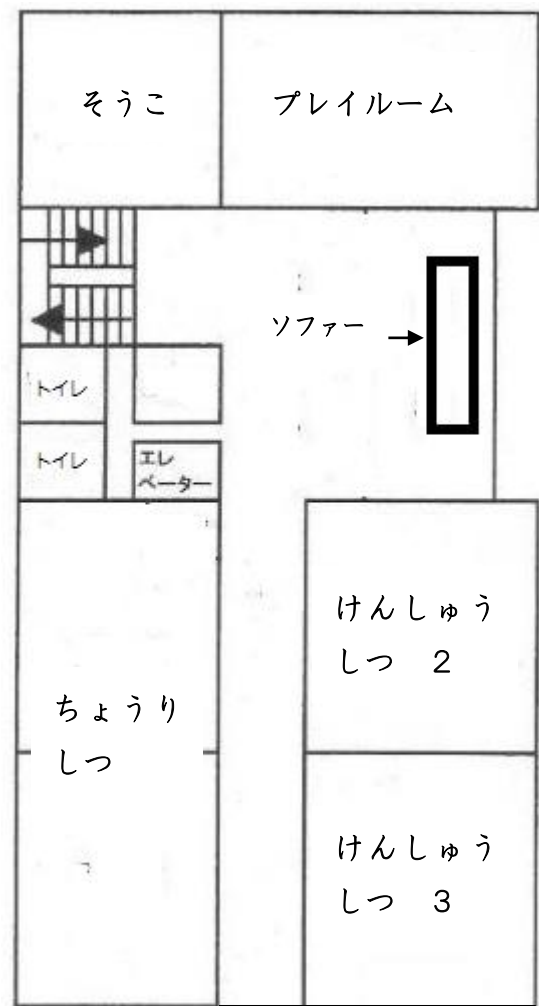


ABCこうみんかん

【1かい】



【2かい】



「あります・います」どちらですか。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲



⑳



あります

います

チラシを よんでみよう



1. チラシの なかから つぎの ことばを さがしましょう。

1,200 円	1,584 円	130 円	ポイント 2 倍	
20% OFF	わりびき 4 割 引	わりびきけん 割 引 券	27 日 限 り	20% OFF

1. どんないみですか。

メンズ	レディース	レジにて 20% OFF	ひ が 日 替 わ り	ち ょ う と っ か 超 特 価
-----	-------	--------------	----------------	----------------------

2. こたえましょう

1. 27 日に たまごを かいました。たまごは いくらですか。

2. コンタクトレンズを かいたいです。このお店には、2 回きました。

1,200 円 割 引 券 を つかうことができますか。

まいにち しますか。

げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび	どようび	にちようび
						

まいにち りょうりしますか。 . . . はい、まいにち します。

げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび	どようび	にちようび
						

まいにち かいものしますか。 . . . いいえ、ときどき します。



まいにち せんたくしますか。
まいにち そうじしますか。
まいにち たいそうしますか。
まいにち べんきょうしますか。
まいにち かおを あらいますか。
まいにち はを みがきますか。

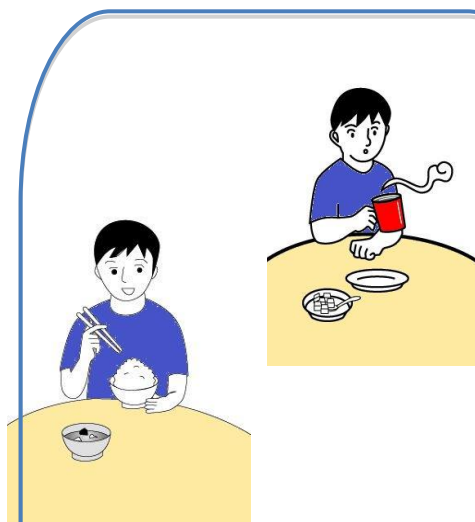


だれと たべますか。

かぞくと たべます。

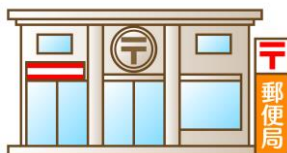


と



どこに いきますか。

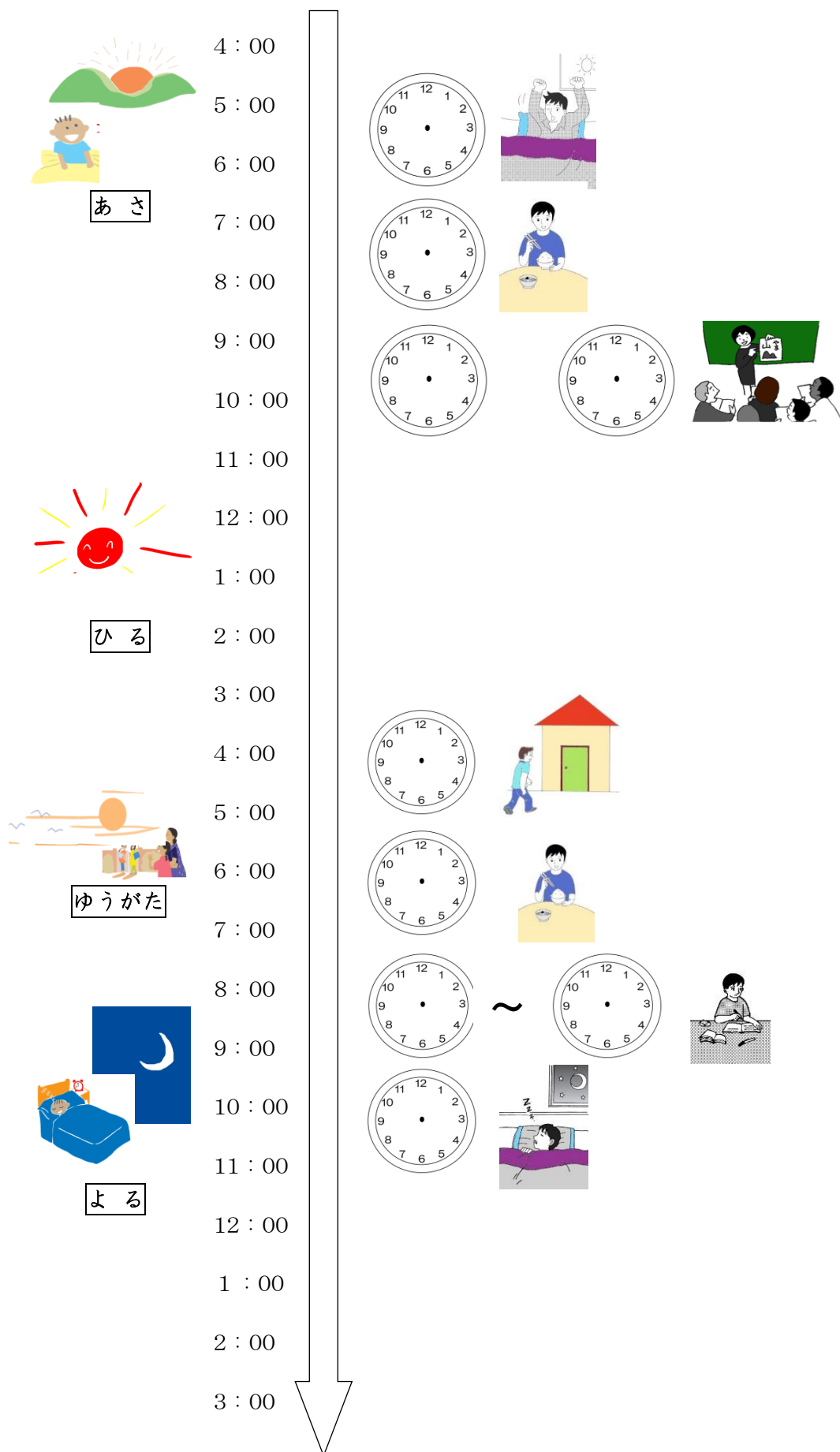
こうえんに いきます。



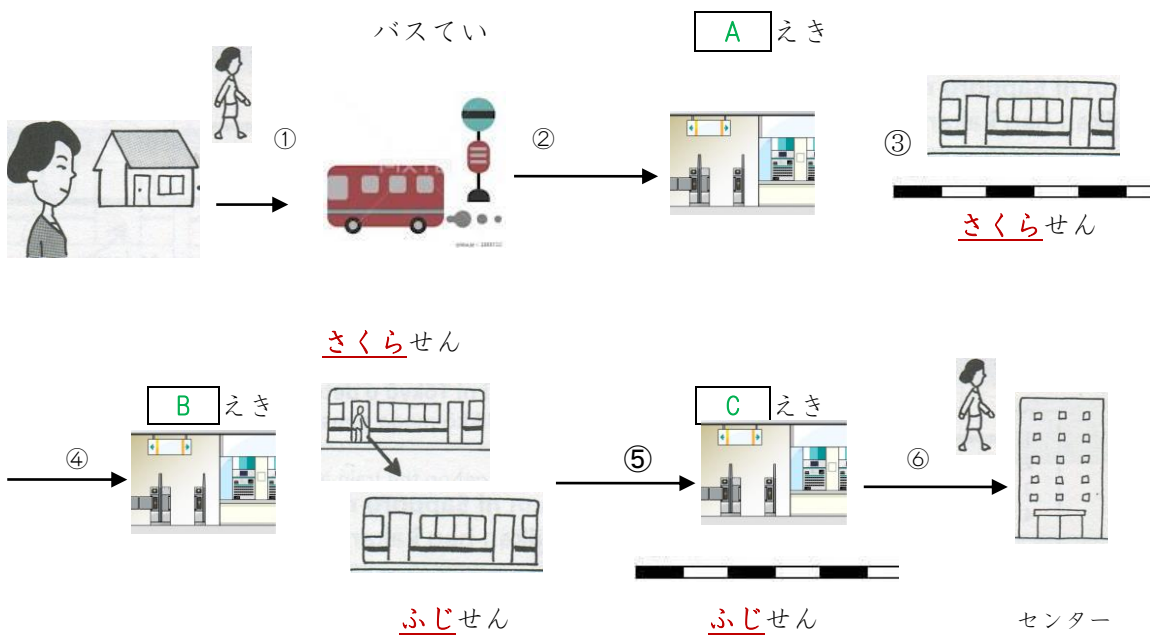
に



<わたしの いちにち>



■うちから、センターまで どうやって いきますか。



● のります ● おります ● のりかえます

- B えきで さくらせんを おります。 ふじせんに のります。
- B えきで さくらせんを おりて、 ふじせんに のりかえます。
- B えきで さくらせんから ふじせんに のりかえます。

① うちから バスてい（バスていりゅうじょ）まで あるいて いきます。

② バスにのって A えきまで いきます。

③ A えきで さくらせんに のって、 B えきまで いきます。
だいたい 20 分くらいです。

④ B えきで でんしゃを おります。 B えきで ふじせんに のります。
B えきで さくらせんを おりて、 ふじせんに のりかえます。

⑤ ふじせんに のって、 C えき まで いきます。

⑥ C えきで でんしゃを おりて、 センターまで あるいて いきます。
センターは えきの ちかくですから、とても べんりです。
うちから センターまで ぜんぶで 1 時間ぐらい かかります。

■うちから、どうやって センターまで きますか。

- ・ (A) 駅^{えき}で (さくら) 線^{せん}に _____、(B) 駅^{えき}で _____。
- ・ (B) 駅^{えき} _____ (さくら) 線^{せん} _____ おりて、(ふじ) 線^{せん} _____ のりかえます。
- ・ (C) 駅^{えき} _____ (ふじ) 線^{せん} _____ おりて、 センターまで 歩^{ある}いて行きます。

■あなたは どうやって センターに きますか。

なんじに うちを でて、なんじに センターに つきますか。
 センターまで どの ぐらい かかりますか。

◇クラスメートは どうやって センターに きますか。
 どのくらい かかりますか。

◇クラスメートの うちに、どうやって いきますか。

こくないりょこう

ひがえ

国内旅行（日帰り旅行）



☆はなしまししょう ☆かきまししょう

●わたしは _____ に いった ことが あります。

①いつ だれと いきましたか。

②どうやって （なんで） いきましたか。

③なにが ありましたか。

④なにを みましたか。なにをしましたか。

⑤りょこうは どうでしたか。

■ ^{りょこう}旅行 ^{けいかく}計画（プラン）をたてましょう

^{しゅうまつ}週末に ^いどこに 行きたいですか。



どこに? だれと?

_____ いきたいです。

●うちから どうやって いきますか。そこで なにを しますか。

よさんは どのくらい?

☆ こんなとき、なんと いいますか。

マネージャーの たなかさんに はなしたいことが あります。

- かいしゃに でんわをします。でんわに でたひとに なんと いいますか。

- たなかさんの けいたい に でんわしました。たなかさんが でした。
はじめに なんと いいますか。

- たなかさんが でんわに でした。たなかさんは いま でんしゃの
なかです。でんしゃから おりたら、でんわをすると いいました。あなた
は なんと こたえますか。

たなかさんから あなたの けいたい に でんわが ありました。

- あなたは いま えきに います。たなかさんの こえが よく きこえま
せん。なんと いいますか。

- たなかさんと はなしました。でんわを きります。なんと いいますか。

もんしんひょう
問診票

年 月 日

フリガナ	
名前	(男 女)
生年月日	明・大・昭・平 年 月 日 (才)
住所	〒
電話番号	()
身長 しんちょう	cm
体重 たいじゅう	kg

1. 今日^{きょう}は、どうして病^{びょう}院^{いん}に来^きましたか。
2. いつからですか？
3. 今^{いま}までに大きな病^{びょう}気^{うき}にかかりましたか。(いつごろ、どんな病^{びょう}気^{うき}にかかりましたか。)

* 「はい」「いいえ」のどちらかに○をつけてください。

4. 今^{いま} 薬^{くすり} をのんでいますか？ はい ・ いいえ
「はい」の方^{かた}・・・ 薬^{くすり} のなまえ ()
5. アレルギーはありますか？ はい ・ いいえ
「はい」の方^{かた}・・・ 食^たべ物^{もの} () 薬^{くすり} ()
6. タバコを吸^すいますか？ はい ・ いいえ
「はい」の方^{かた}・・・ 1日^{にち} () 本^{ほん}
7. お酒^{さけ}を飲^のみますか？ はい ・ いいえ
「はい」の方^{かた}・・・ 時^{とき}々^{どき} (週^{しゅう} に 回^{かい}ぐらい / 種^{しゅ}類^{るい}) 毎^{まい}日^{にち}
8. 女^{じょ}性^{せい}の方^{かた}に 今^{いま} 妊^{にん}娠^{しん}していますか？ はい ・ いいえ
「はい」の方^{かた}・・・ (月^{かげつ})

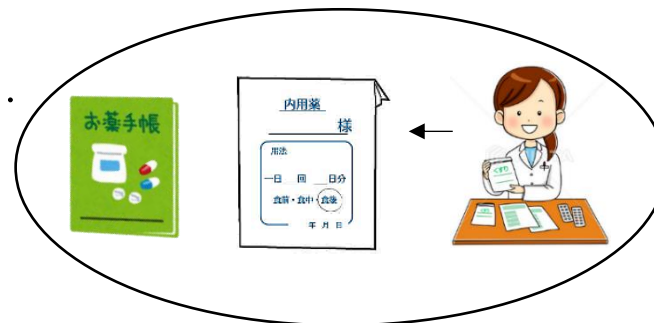
薬

医院から薬局までの流れ

1.



3.



2.



※「やっきょく」「しょうせん」「おくすりてちょう」などの言葉も大切です。

* 薬袋

内用薬

年 月 日

やまだ たろう 様

1 日 3 回 12 日分

錠剤 1 回 2 錠

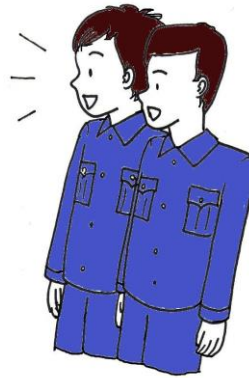
食前 **食後** 就寝前

ちゅうい
* 注意 すこし ねむくなります。

- ① 1 日に なんかい 何回 のみですか。 _____
- ② なんにちぶん 何日分 ありますか。 _____
- ③ 1 回に なんじょう 何錠 のみですか。 _____
- ④ いつ のみですか。 _____
- ⑤ くるまを うんてんしても いいですか。 _____

～ して ください。
わかりましたか。

はい、わかりました。



～ して ください。
わかりましたか。

すみません。
もういちど、おねがいします。



☆わたしの ひなんぶくろ

かぞくと いっしょに じゅんびしましょう。



☆ ひなんぶくろといっしょに　じゅんびしておきましょう。

たいせつなれんらくさきのメモです。

ほんにんのじょうほう

なまえ	
かいしゃのなまえ	
きんきゅうれんらくさき	①
	②

かぞくのじょうほう

かぞくのなまえ	かいしゃ・がっこうの なまえ	きんきゅう れんらくさき



たいふうが きました。
 たいふうの あとで たいへんです。
 どうしたらいいか わかりません。
 ともだちや にほんじんに ききましょう。

☆ みずが でません。

☆ でんきが つきません。

☆ やねが こわれました。

★ ほかに しりたいことを ききましょう。

発展学習のヒント

ユニット 1

すでに基本的な自己紹介は問題なくできる学習者は、自分についてさらにさまざまなトピックで話せるようにします。例えば、以下のようなトピックが考えられます。

◆名前の意味、由来を聞く

支援者の名前にどんな意味や由来があるかを話して、学習者の名前についても説明してもらいます。国により名前の付け方にも特徴があることがわかり、楽しい活動になるでしょう。

◆仕事について聞く

学習者が、いつ、どこで、どんな仕事をしてきたかを話すことは、その人の歴史を語ることにもなります。学習者が母国で、日本での仕事とは全く異なる経歴をもつこともよくあることです。それを引き出すことで、学習者の新しい一面を知る機会にもなるでしょう。

◆マインドマップを作る

自分について、どんなことが話したいか、マインドマップを書きながら、学習者自身に考えてもらいます。ヒントとして、下記のような項目をあげておくといよいでしょう。

名前・ニックネーム／国・出身地(どんなところ)／来日時期／国での仕事・今の仕事家族のこと／趣味・好きなこと・得意なこと／自分の性格(いいところ、悪いところ)どうやって日本語を学んだか／日本の印象／日本の生活について／将来の夢・・・

(参考： ユニット 1 教材例②③④ pp. 95-97)

ユニット 2

◆国の人口、面積、山の高さ、川の長さ、平均寿命

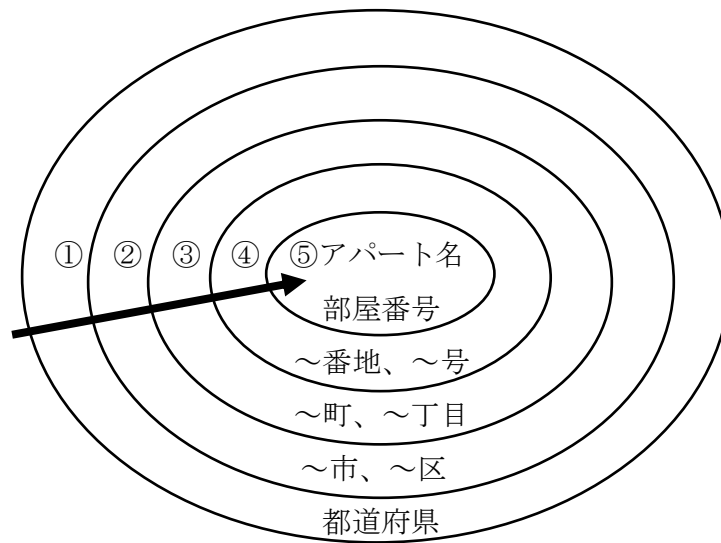
日本や学習者の国の人口、面積、山の高さ、川の長さ、国民の平均寿命などを提示して読んでみましょう。またお互いの国と比べてみましょう。

※ インターネットのランキング表などで調べることができます。

◆住所の言い方

住所の言い方、書き方を練習します。日本の住所は大きいところ（都道府県）から小さいところ（番地）の順で書きますから、それを練習しましょう。ひらがなが書ける場合は、実際

に自分の住所を書いてみましょう。



ユニット 4

◆チラシを使った学習

- ・学習者の日本語力によりますが、チラシを使った学習もできます。チラシには商品の写真、価格、お得情報など、いろいろな情報があり、学習ネタの宝庫です。しかし、学習者はチラシを見ても、どこをどう見てよいかわからない場合がほとんどでしょう。多すぎる情報の中から、学習者の日本語力に合わせて、何を学習するのかをはっきり決めてから学習しましょう。

※ 情報が多すぎるチラシは学習者の負担になりますから、注意してください。

- ・実際のチラシを使う場合は、わかりやすい一部を選んで見せるなどよいでしょう。先に学習したいものを説明して（例えば、30%OFF、3割引き、セールなどのことば）、実際のチラシから探してもらうなどの活動も考えられます。スーパーであまり買い物をしない学習者には向かないかもしれませんが、スマホでよくお店の広告などを見ている学習者はいろいろなお店に応用できると思います。

（参考： ユニット 4 教材例① p. 100）

ユニット 5

◆過去の日について話す

- ・直近の一番忙しかった一日や、過去の楽しかった思い出の一日（誕生日、お祭り）など、過去形を使った発表もしてみましょう。

◆スケジュールについて話す

- ・スケジュールを言ったり聞いたりする練習をたくさん行います。何かイベントなど、予定のインタビュータスクや、「～たい・～ませんか・～ましょう」なども学習して、誘ったり出かける約束をしたり会話などにも発展できるでしょう。

ユニット 6

◆旅行計画

発展学習として、旅行計画を立てる活動などが考えられます。はじめは経路があまり複雑でない目的地への日帰り旅行計画から始め、日本語力に応じて、宿泊を伴う旅行計画を立てるとよいでしょう。旅行計画を立てるためには情報検索は欠かせません。旅行のパンフレットから要点を掴む読み方、また PC やスマホの扱いに慣れている学習者には情報検索 の仕方などを支援します。

※学習者の日本語力に応じて行います。

・日帰り旅行

日帰りできる比較的近いところで、どこに行きたいかを話し合います。

どうしてそこに行きたいのか、そこで何をしたいのか、誰と、いつ、行くのか、何時に出て、どこを回って、何時に帰るか、交通費はどのぐらいかかるか、などメモを作り、これまでの既習の表現を使って話します。

・宿泊を伴う旅行

日帰り旅行と同様に進めますが、まずキーワードを紹介します。2泊3日、予約、ホテル、旅館、宿泊費、朝食付きなどの語彙学習をしておくといよいでしょう。

・作文・発表・まとめ

口頭で話したら、メモを基に作文を書いてみましょう。表記・文法などのチェックを受けたら、発表してもよいでしょう。

(参考： ユニット 6 教材例② pp. 107-108)

◆情報検索

旅行のパンフレットなどから、重要なところを読み取ります。あらかじめ、キーワードを学習しておくといよいでしょう。

PCやスマホ操作ができる学習者は役に立つサイトを紹介してサイトの見方を支援します。また、必要に応じてキーボードで日本語入力の仕方を支援します。

ユニット7

◆地域のガイドブック等

地図だけでなく、情報情報を入れて地域のガイドブックやお役立ちマップを作ります。作る際には、地域の情報誌・パンフレット、店の広告やメニュー、写真など参考になるものが身近にたくさんあるので、活用しましょう。

(例)

地域のお役立ちマップ

：地域の情報誌などからのお役立ち情報を書きこんだ地図

地域のガイド

：お気に入りやお勧めのスポット、店などについての簡単な紹介文集

分野別のガイド

：レストランガイド、町の歴史歩き地図など項目別のガイド

ユニット8

◆SNSの使用

ネット時代の昨今、誰もがスマホやタブレットなどを利用して連絡を取りあっています。いろいろな連絡がLINEできたり、FacebookなどSNSを利用してコミュニケーションを取り合う時代です。母国語や共通語で連絡を取り合っている学習者も多いですから、日常的な連絡が日本語のメールやLINEでできるようになると日本での生活の利便性が上がります。電話より自分のペースでやりとりできる携帯メールを好む学習者もあります。ひらがな入力のやり方を覚えることは文字学習にもつながりますので、簡単な連絡などから始めて日本語学習の動機につなげられる

(例)

- ・遅刻・欠勤の連絡をメール（LINEでも内容は同じです）で送る練習をしてみましょう。
- ・SNSへの投稿を母語でしている場合、差し支えない内容のものを簡単な日本語で作ってみましょう。
- ・興味のある分野のTwitter、ブログなどを読んでみましょう。

ユニット 9

◆学習者の国の民間療法

熱があるとき、風邪をひいたときなど、学習者の国ではどうするか、民間療法について話してもらいます。国によってそれぞれ異なる対処法、あるいはよく似た対処法があることがわかり、知識を共有することで互いを認め合う意識につなげます。とよいと思います。

ユニット 10

◆行事をさらに詳しく

・学習者の興味やレベルに応じて、カバーページで紹介した行事についてさらに詳しく、由来や内容を話したり、下記の事柄についても紹介したりするとよいでしょう。

- 1 月 正月飾り（しめ飾り、門松）、鏡餅、お節料理の食材、お雑煮、祝箸、初詣の人出ランキングなど
- 2 月 豆まき（「鬼は外、福は内」、大豆、恵方巻）
- 3 月 ひな祭り（桃の花、白酒、ひなあられ）、お彼岸（墓参り、ぼた餅）、卒業式
- 4 月 入学式・入社式
- 5 月 こいのぼりの由来、菖蒲湯、柏餅、五月人形、兜
- 6 月 衣替え
- 7 月 七夕の話、土用丑のうなぎ、夏バテ対策（熱中症、猛暑、熱帯夜）
- 8 月 夏祭り、花火、終戦記念日、原爆の日
- 9 月 お月見（団子）、お彼岸（おはぎ）
- 10 月 秋祭り（収穫の秋）
- 11 月 七五三の意味、千歳あめ
- 12 月 忘年会、大掃除、年越しそば、除夜の鐘

※ 実物（正月飾りや祝箸、ひなあられなど）や各種パンフレット（お節料理やひな人形、五月人形など）を見せて話題を広げましょう。

参考： ・『にほんご えじてん』 14. ぎょうじと にほんぶんか
・日本語初級者向けの読解教材や子どもの絵本や紙芝居（例「たなばたの話」）

・学習者の国の行事紹介

学習者の国の季節や行事について QA しながら話せるようにします。まとめて話せるようになったら、作文を書く練習やそれを覚えて皆の前で発表するなど活動をつなげていきます。

- ・ 日本文化体験

書道

「お正月」「新年」など、年賀状の一部を毛筆（筆ペンでも）で書くのも楽しいです。

お正月の書初めも皆でやってみるとよいでしょう。

七夕の短冊

七夕飾りの短冊に願い事を書いて笹につるしましょう。

ユニット 12

◆コミュニケーションの場を広げる

地域で生活していく中では、さまざまな場面でのコミュニケーションが必要になってきます。町内会や婦人会、子ども会、公民館やスポーツセンターでの催しなど、学習者が積極的に関わろうとすれば、付き合いの輪も大きく広がって行きます。学習者の生活環境に合わせて、話題を広げてみましょう。

ユニット 13

◆容姿や性格を表す語彙

人の容姿や性格を表す語彙を紹介し、身近な人について話せるようにします。

「背が高い／低い、髪が長い／短い、・・・」「やさしい、面白い、楽しい、・・・」

ユニット 15

◆接客表現・敬語表現

外部の人（お客様など）と接する場面、敬語表現の学習をしてロールプレイ（役割練習）してみましょう。

ユニット 16

◆学習者が先生になる

自国やふるさとについて紹介するだけでなく、実際に学習者が先生になって、自分の得意なことを教えるのもよい経験になりますし、地域の人たちに喜ばれます。センターでもこれまでに、各国の文字や挨拶の紹介、国の歌や踊り、料理、伝統的な遊びなどをはじめ、エチ

オピアのコーヒーの入れ方、ミャンマーの伝統的なお化粧、民族衣装の方など、さまざまな企画がありました。

ユニット 17

◆さまざまな情報を得る

- ・地域の市や区のホームページや、ハザードマップ、災害時帰宅支援マップなどを、調べて支援者や家族と一緒に見て情報を得ましょう。
- ・携帯に『NHK 防災アプリ』をダウンロードして実際に使ってみましょう。
- ・気象庁のホームページから、特別警報・警報・注意報について読んでみましょう。
- ・国のことばで相談したいときどうしたらいいか調べてみましょう。

※ 支援者の皆さまへ

ご参考までに、「ひらひらめがね」というサイトはホームページの記事などに振りがなを付けることができます。また、「多言語生活情報」を検索して [clair>tagengo](#) を開くといろいろな言語で情報が得られるページがあります。どうぞご覧ください。

2019年度 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
難民のための日本語教育人材養成・研修カリキュラム開発事業

難民のための日本語教育人材養成・研修教材検討委員会

委員長 関口明子
委員 有澤田鶴子
伊藤美智代
大久保美子
小瀧雅子
新野佳子
西山陽子

教材作成ワーキンググループ

作成委員 有澤田鶴子
井上紀代
小瀧雅子
竹歳三千子
新野佳子
本田穂波
松井治子
宮下しのぶ
編集 谷野由佳

はじめまして にほん ガイドブック

2019年12月1日 初版発行

著作 文化庁
制作・発行 公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3丁目25-2 虎ノ門ESビル2F
TEL: 03-3459-9620 FAX: 03-3459-9660